

令和元年度 第1回総合教育会議 参考資料 1

【国内外で活躍できる人材の育成】

1	国際イベントの状況.....	1
2	県の取組事例 論点1（国際交流を通じた特色ある教育の推進）.....	17
3	県の取組事例 論点2（県立高校における魅力ある教育環境の充実）.....	33
4	県教育振興基本計画における国内外で活躍できる人材の育成に 関連する施策とその位置付け.....	59

1 国際イベントの状況

項目	頁
(1) 国際イベントの県内開催状況（2019年度以降）	2
ラグビーワールドカップ2019の開催	4
東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の本県開催	5
東京2020オリンピック自転車競技テストイベントの開催	6
オリンピック・パラリンピック文化プログラムの推進	7
(2) 国際イベントの県内キャンプ地等	10
(3) ラグビー教本の制作及び学校教育への活用	11
(4) ラグビーワールドカップ2019を契機とした国際交流、教育の推進	12
(5) 海外代表チームの強化合宿等の受入	14
(6) オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業	15
(7) 障害者スポーツ応援隊の活動	16

1 国際イベントの状況
(1) 国際イベントの県内開催状況 (2019 年度以降)

1 スポーツ関係

	名称	開催日程	開催地 (市町)
1	2019 ツアー・オブ・ジャパン第6ステージ 富士山	2019. 5. 24	小山
2	2019 ツアー・オブ・ジャパン第7ステージ 伊豆	2019. 5. 25	伊豆
3	READY STEADY TOKYOー自転車競技 (ロード)	2019. 7. 21	小山
4	2019SBS カップ国際ユースサッカー	2019. 8. 8～8. 11	藤枝、沼津、静岡
5	JAPAN TRACK CUP I & II	2019. 8. 23～8. 25	伊豆
6	FIVB ワールドカップバレーボール 2019 女子浜松大会	2019. 9. 14～9. 19	浜松
7	ラグビーワールドカップ 2019	2019. 9. 20 ～11. 2	袋井
8	READY STEADY TOKYOー自転車競技 (マウンテンバイク)	2019. 10. 6	伊豆
9	READY STEADY TOKYOー自転車競技 (トラック)	2020. 4. 11～4. 12	伊豆
10	東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会 (自転車競技)	2020. 7. 24 ～ 8. 9 2020. 8. 25 ～ 9. 6	伊豆、小山

2 文化・芸術関係

	名称	開催日程	開催地
1	ふじのくに ㊦ せかい演劇祭 2019	2019.4.27 ~ 5.6	静岡市
2	浜松国際管楽器アカデミー&フェスティヴァル	2019.8.5 ~ 8.10	浜松市
3	大道芸ワールドカップ in 静岡	2019.11.1 ~11.4	静岡市
4	2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム	2018~2020	県内各地
5	第9回静岡国際オペラコンクール	2020.10.31 ~11.8	浜松市

ラグビーワールドカップ 2019 の開催

(ラグビーワールドカップ 2019 推進課)

1 要 旨

ラグビーワールドカップ 2019 の本県開催に向け、市町や関係団体と協力し大会開催準備や機運の盛り上げを図るとともに、経済効果や知名度の向上につながる大会の開催効果を県内に波及させ、あわせて県内のスポーツ振興や国際交流の促進を図る。

2 大会概要

主 催	ワールドラグビー (所在地:アイルランド・ダブリン、会長:ビル・ボーマント)
開催時期	2019年9月20日(金)～11月2日(土) ・開幕戦 9月20日 19:45～ 日本 v ロシア (東京スタジアム) ・決勝戦 11月2日 18:00～ (対戦カード未定) (横浜国際総合競技場)
参加チーム数	20 チーム (日本の出場は確定)
試合形式	①予選プール 5チーム×4プール (プール内総当たり戦) 40 試合 ②決勝トーナメント 準々決勝、準決勝、3位決定戦、決勝: 8 試合
開催都市 (12都市・ 19自治体)	東京都、札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、 神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、 神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県
静岡県での 試合	9月28日(土)16:15～ 日本 v アイルランド 10月4日(金)18:45～ 南アフリカ v イタリア 10月9日(水)16:15～ スコットランド v ロシア 10月11日(金)19:15～ オーストラリア v ジョージア
開催効果	経済波及効果:約4,200億円、訪日外国人数:約40万人、 雇用創出効果:最大3.9万人、※「Ernst&Young」社による試算 (2015年9月)

3 ラグビーワールドカップ 2019 に向けた取組

開催準備	<ul style="list-style-type: none"> ・交通輸送、警備、ファンゾーン、都市装飾等の開催準備 ・ボランティアの配置決定、研修 ・チケット販売促進支援 ・エコパ仮設トイレ、Wi-Fi、芝改修等の施設整備
機運醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・100日前イベント、日本代表テストマッチPV等の実施 ・トップリーグ、ラグビーフェスティバル、女子7人制シリーズ等での大会PR ・開催都市特別サポーター、各種メディアを活用した機運の盛り上げ ・タグラグビー教室等によるラグビーの普及促進
レガシー 創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー教本を活用した授業等の実施、ヤマハ選手による学校訪問 ・小中高生の観戦招待 ・アザレア・スポーツクラブへの支援

東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の本県開催

(オリンピック・パラリンピック推進課)

1 要旨

東京オリンピック・パラリンピック自転車競技について、BMXを除く全ての自転車競技が本県で開催されることとなった。組織委員会、施設所有者、関係市町などの関係機関と連携し、万全の準備を進める。

2 東京オリンピック・パラリンピック自転車競技開催概要

(1) オリンピック 2020年7月24日(金)～8月9日(日)

種別(日程)※1	種目	会場
トラックレース (8/3-9)	男女6種目 (スプリント、ケイリンなど)	伊豆ベロドローム(伊豆市)
ロードレース (7/25, 26, 29)	男女2種目 (ロードレース、個人タイムトライアル)	スタート:武蔵の森公園(東京都調布市) ゴール:富士スピードウェイ(小山町)
マウンテンバイク (7/27, 28)	男女1種目 (クロスカントリー)	伊豆マウンテンバイクコース(伊豆市)
BMX (7/30-8/2)	男女2種別 (レーシング、フリースタイル)	有明BMXコース(東京都江東区)

※1 オリンピックの大会日程については、7月18日のIOC理事会で承認された。

(2) パラリンピック 2020年8月25日(火)～9月6日(日)

種別(日程)※1	部門(対象の障害)、クラス分類	会場
トラックレース (8/26-29)	C部門(四肢機能障害、麻痺等)5クラス B部門(視覚障害)1クラス	伊豆ベロドローム(伊豆市)
ロードレース (9/1-4)	C部門(四肢機能障害、麻痺等)5クラス H部門(脊髄損傷等)5クラス T部門(重度の麻痺)2クラス B部門(視覚障害)1クラス	スタート/ゴール (富士スピードウェイ)

※1 パラリンピックの大会日程については、10月19日のIPC理事会で承認された。

3 これまでの経緯

平成26年12月8日	IOCが「アジェンダ2020」を採択 IOCが開催費の抑制を図るため、既存施設の最大限の活用促進と開催都市以外での競技開催を容認
平成27年12月9日	IOC理事会において、オリンピック自転車競技会場(トラックレース/MTB)の伊豆への変更を承認
平成28年4月16日	IPC理事会において、パラリンピック自転車競技会場(トラックレース)の伊豆への変更を承認
平成30年2月3日	IOC理事会において、オリンピック自転車競技のロードレースのゴール会場を富士スピードウェイとすることを決定
平成30年3月7日	IPC理事会において、パラリンピック自転車競技のロードレースのスタート・ゴール会場を富士スピードウェイとすることを決定
平成30年7月18日	IOC理事会において、オリンピックの大会日程を承認
平成30年8月9日	組織委員会がオリンピックロードレースコースを公表
平成30年10月10日	組織委員会がパラリンピックロードレースコースを公表
平成30年10月19日	IPC理事会において、パラリンピックの大会日程を承認

東京 2020 オリンピック自転車競技テストイベントの開催

(オリンピック・パラリンピック推進課)

1 要旨

東京 2020 組織委員会が、平成 30 年 11 月 22 日 (木) にテストイベントカレンダー (第 2 弾) を公表し、自転車競技テストイベントの概要を発表した。また、平成 31 年 1 月 23 日 (水) には東京 2020 組織委員会主催のテストイベント名称が「READY STEADY TOKYO」に決定したと発表した。

2 テストイベント概要

	ロードレース	MTB	トラック・レース
イベント名	READY STEADY TOKYO -自転車競技 (ロード)	READY STEADY TOKYO -自転車競技(マウンテンバイク)	READY STEADY TOKYO -自転車競技 (トラック)
日程	2019 年 7 月 21 日 (日)	2019 年 10 月 6 日 (日)	2020 年 4 月 11 日 (土)~12 日 (日)
会場	スタート (武蔵野の森公園) フィニッシュ (富士スピードウェイ)	伊豆マウンテンバイクコース	伊豆ベロドローム
主催	東京 2020 組織委員会		

- ※ 参加チーム (ロードレース) はナショナルチーム (最大 24 チーム) を予定
- ※ ロードコース (オリンピックの男子ロードレースコース (富士山麓方面を除く))



3 その他

ロードテストイベント同日に富士スピードウェイにおいて 1 年前イベント開催を計画中。

オリンピック・パラリンピック文化プログラムの推進

(文化政策課)

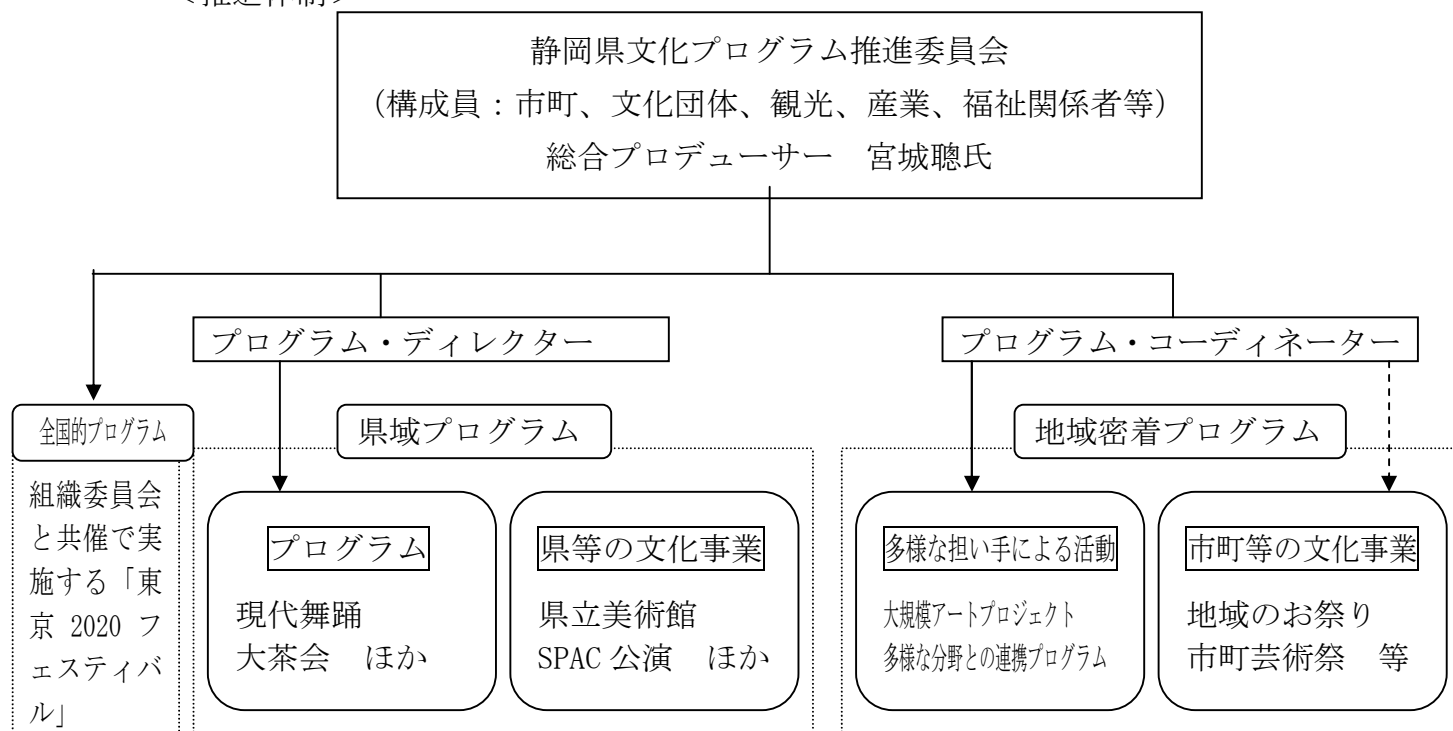
1 要 旨

2020年東京オリンピック・パラリンピック「文化プログラム」を県内各地で多彩かつ重層的に展開するため、「全国的プログラム」、「県域プログラム」、「地域密着プログラム」の三つのカテゴリーに区分して、多彩なプログラムを戦略的に県内各地域で重層的に展開する。

2 事業概要

区 分	概 要
全国的プログラム	組織委員会と共催で実施する Nippon フェスティバルにエントリーし、本県が世界に誇る芸術文化を発信するプログラム
県域プログラム	県全域を視野に静岡県ならではの文化資源を活用したプログラム ○県内全域で実績を積み重ねている団体等が実施するプログラム（現代舞踊、大茶会、伝統芸能等） ○県立美術館や県文化財団等が実施する展示、イベント 等
地域密着プログラム	多様な担い手による地域の文化・芸術活動や、文化と福祉・教育・まちおこしなど、他分野との協働を促進するプログラム ○県民等が担い手となり展開する芸術祭や文化の力を福祉や観光、まちづくり等に活用するプログラム ○地域のお祭り、市町芸術祭、各地の伝統芸能 等

<推進体制>



<実施例>

《富士の山ビエンナーレ》

富士市、静岡市、富士宮市の3市を跨ぎ、市民有志が2014年から隔年で開催している現代アートの芸術祭。

「紙」など地域資源をテーマに制作されたアート作品が、観る人を刺激するとともに、開催エリアに点在するアート作品を巡ることを通じ、港町、宿場町、工業都市、里山など、普段は訪れることのない町並みや人々の営みを実感する機会となる。



製紙産業に着目した作品の一つ



地元住民の案内で、静岡産業大学の学生が作品鑑賞とまち歩きを体験

《UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川》

大井川鉄道の無人駅とその周辺の集落を舞台に毎年開催している地域芸術祭。



使われなくなった茶工場で、当時、暮らしていた人々の営みを伝える作品



無人駅で作品を展示しているアーティストによるワークショップ

静岡県文化プログラムの展開

概要	2018年度		2019年度		2020年度	
	1月	1月	1月	1月	1月	1月
全国的プログラム			【プレ】静岡県文化プログラム 2020フェスティバル “ブンプロ・プレフェス” (9/20) (11/2) ラグビーW杯開催	静岡県文化プログラム 2020フェスティバル “ブンプロ・フェス” (7/24) (9/6) 2020東京大会開催		
				☆Nipponフェスティバル (5月上旬)		
県域プログラム			【500日前イベント(3/26～4/4)】 ◎ 伝統芸能F(3/30) ◎ 世界お茶まつり「春の祭典」(5/10～12) 現代舞踊(9/23)◎ 大茶会(9/25～29)◎ 伝統芸能F(9/21)◎	【オープニングセレモニー】 ◎ 郷土唱歌(3/29) ◎ 伝統芸能F(5月) ◎ 現代舞踊(7/25、26) ◎ 大茶会(7/29～8/2) ◎ 伝統工芸品展(7/17～8/2) ◎ 県民参加型演劇(夏頃)		
			世界お茶まつり「秋の祭典」(11/7～10)◎	国際オペラコンクール(10/31～11/8)◎ 地域伝統芸能全国大会(11月中旬)◎		
地域密着プログラム			市町のプログラム	かけがわ茶エンナーレ● 富士の山ピエンナーレ●		
			団体のプログラム			
プロジェクト実施時期 の考え方			新茶を楽しむ時期に 多彩なプログラムを開	GW等の誘客 期と連動させたプログラムの実施	2020東京大会開催に合わせた集中的なプログラムの展開	余韻が残るアフター五輪で芸術の秋を彩るプログラムを展開
			500日前イベントをプレ期間のスタートに位置づけ実施	本番の幕開けを飾る早春にオープニングセレモニーを実施	本番の幕開けを飾る早春にオープニングセレモニーを実施	

1 国際イベントの状況
(2) 国際イベントの県内キャンプ地等

1 ラグビーワールドカップ 2019

	キャンプ地	国
1	静岡市	イタリア
2	浜松市	日本、スコットランド
3	掛川市・磐田市	アイルランド、ロシア、オーストラリア
4	御前崎市	南アフリカ、ジョージア

2 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会

	キャンプ地	国	種目
1	焼津市	モンゴル	レスリング(オリンピック) 陸上(パラリンピック)
2	伊豆の国市	モンゴル	柔道(オリンピック/パラリンピック)
3	藤枝市	イタリア	柔道(オリンピック)
4	富士宮市	スペイン	空手道(オリンピック)
5	島田市	モンゴル	ボクシング(オリンピック)
6	湖西市	スペイン	卓球(オリンピック)
7	浜松市	ブラジル	全競技
8	静岡市	台湾	陸上(オリンピック)
9	静岡市	スペイン	バドミントン(オリンピック/パラリンピック)
10	掛川市	台湾	アーチェリー(オリンピック)
11	牧之原市・下田市	アメリカ	サーフィン(オリンピック)
12	牧之原市	中国	サーフィン(オリンピック)
13	御殿場市	イタリア	空手(オリンピック)
14	島田市	シンガポール	卓球 (オリンピック)
15	藤枝市	イタリア	ライフル射撃 (オリンピック)
16	袋井市	アイルランド	陸上 (オリンピック)
17	浜松市	アメリカ	水泳飛込 (オリンピック)
18	富士市	スイス	水泳競技 (オリンピック)

(3) ラグビー教本の制作及び学校教育への活用

(文化・観光部ラグビーワールドカップ2019推進課)
(教育委員会義務教育課、健康体育課)

1 概要

平成30年7月19日開催の地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会において御提案いただいた「ラグビーに関する教本の制作及び学校教育への活用」について、平成31年3月末にラグビー教本が完成した。31年度は、県内の小中学校、義務教育学校及び特別支援学校において、当該教本を活用した授業等を展開する。

2 ラグビー教本の内容、活用方法等

区分	内容
内 容	第1章：ラグビーが大切にしている5つのこと (ラグビー憲章：「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊重」) 第2章：ラグビーを楽しむために ルールの基本 第3章：チーム15人の役割 (ポジション) 第4章：ラグビーワールドカップ™を知ろう ※A5版、64ページ+とじこみ付録8ページ ※「映像教材」(DVD：約30分)と「教本・DVD活用のおてびき」 (A4、4ページ)も併せて制作
制作部数	73,000部
配布方法	県内の国公立・私立小中学校、義務教育学校及び特別支援学校に配布 ※小5・中1の生徒数分(十余部)を配布 ※教本は小学校高学年～中学生が理解できる内容とし、各学校の判断で他学年に活用することも可能
授業等の活用例	総合的な学習の時間、保健体育(中学校)、学校行事、参観日等、朝・昼・放課後の時間(裁量の時間枠)など
授業等の実施方法	<重点校に指定された学校> ※応募方式で72校を指定 ・平成31年4(5)月から9月の間で、月1回程度、重点的に授業を実施 ・ヤマハ発動機ジュビロの現役選手等が、いずれかの回で学校を訪問し授業に参加 <重点校以外の学校> ・各学校の実情に合わせて、教本の活用法を決定・実施

(重点校)

地域	市町	小学校	中学校	計	地域	市町	小学校	中学校	計
賀茂	下田市	1		1校	西部	御前崎市	2		2校
	西伊豆町		1	1校		菊川市	2		2校
東部	裾野市	1		1校		掛川市	2		2校
	御殿場市	3		3校		袋井市	12	4	16校
中部	静岡市	2	3	5校		磐田市	22	10	32校
	牧之原市	1		1校		浜松市	3	3	6校
計							51	21	72校

(4) ラグビーワールドカップ2019を契機とした国際交流、教育の推進

(ラグビーワールドカップ 2019推進課)

1 国際交流に向けた取組

(1) エコパ周辺おもてなしエリア

エコパ開催試合当日に、外国人を含めた最も多くの方々の往来が予想される JR 愛野駅からエコパスタジアムに至るラストマイルにおいて、国内外の来訪者が楽しめる様々なコンテンツを提供するとともに、本県の持つ様々な魅力を国内外に発信するための「おもてなしエリア」を設置・運営する。

区域	コンテンツ例
①愛野駅周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭り屋台の展示 ・各市町のご当地グルメ、特産品のPRブース ・文化体験コーナー（茶道、着付け等）
②駅～スタジアム沿道エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・出場国の国旗等による沿道のドレッシング・ライトアップ ・出場国ゆかりの音楽演奏等のストリートパフォーマンス ・民間結婚式場との連携によるガーデンカフェ（バー）
③小笠山総合運動公園エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・出場国大使館等PRブース ・日本情緒の演出（試合終了時の遠州袋井の花火打ち上げ） ・楽器、プラモデル等の地域産業PRゾーン

(2) ファンゾーン

外国人が多く訪れるファンゾーンにおいて、国内外の方々の交流を促進する。

会場	コンテンツ例
①駿府城公園（静岡市）	<ul style="list-style-type: none"> ・RWC各試合のパブリックビューイング ・本県開催試合出場国の民族衣装のお披露目や観光情報等のPR
②ソラモ・えんてつホール（浜松市）	<ul style="list-style-type: none"> ・大使館や政府観光局の協力のもと、各国の郷土料理の提供や特産品・伝統工芸品等をPR ・ラグビーアクティビティ（フォトスポット、パス・タックル体験、日本人プロ選手とのふれあい等）

(3) ラグビーを通じた青少年の国際交流の推進

大会開催500日前記念セレモニーに合わせ、南アフリカ共和国の高校生を招聘し、県選抜チームとの国際親善試合を行うとともに、同校による県内高校の訪問などにより交流を深めた。

○日時：平成30年5月6日（日）～8日（火）

○招待校：フレイムズビーハイスクール（南アフリカ共和国）

○主要行事：歓迎レセプション、県内高校訪問、県内観光、国際親善試合等

(4) ラグビーワールドフェスタ in エコパ

外国の子ども達と県内の子ども達がラグビーを通じた交流を深めるためのイベントを開催した。

- 日時：平成31年3月3日（日）
- 場所：エコパスタジアム及びエントランス広場
- 内容：ラグビーボールアクティビティ（ピッチ内）
エントランス広場イベント（スタジアム周辺）
出場国の子ども達と県内の子ども達との交流記念制作
- 参加者：664人（うち外国人48人）

(5) 関係市町の取組

- ・中学校区単位でチームを定め、応援活動を実施（掛川市）
- ・給食で出場国の料理・食材を提供（袋井市、掛川市、御前崎市）
- ・キャンプ地自治体とチームとの交流（静岡市、浜松市、磐田市、掛川市、御前崎市）

2 教育の推進に向けた取組

(1) ラグビー教本の制作及び学校教育への活用

ラグビーワールドカップ2019を契機として、ラグビーに関する教本を制作し学校教育に活用することで、子ども達のラグビーへの関心を高めるとともに、ラグビー精神等を子ども達が学び、人間としての成長につなげる。

(2) 観戦招待

ラグビーワールドカップ2019本県開催試合に県内の児童・生徒を招待する。
（※ラグビー教本（学ぶ）と観戦招待（観る）をセットで実施）

区分	内容
対象試合、招待予定数	10/ 4（金） 18:45～ 南アフリカ v イタリア 約6,400人
	10/ 9（水） 16:15～ スコットランド v ロシア 約17,200人
	10/11（金） 19:15～ オーストラリア v ジョージア 約3,100人
対象者	・県内の公立・私立小中高等学校及び特別支援学校の児童生徒 ・引率する教員、保護者等

(3) 小中学生へのタグラグビーの普及促進

小中学生へのタグラグビー普及を促進することにより、ラグビーの競技人口及びファンの裾野を拡大するとともに、ラグビーワールドカップ2019の静岡県開催に向けた機運醸成を図る。

区分	内容	実績
タグラグビー指導者養成講習会の開催	小中学校教員等を対象に、タグラグビーの指導者研修会を開催	H28～H30年度 25回、715人が受講
タグラグビー教室の開催	県内小学生を対象に、元ラグビー日本代表選手を講師としたタグラグビー教室を開催	H28～H30年度 16回、503人が参加
小学校におけるタグラグビーの実施	体育授業、朝運動、昼休み等の時間でのタグラグビーの実施	H29年度 498校中291校が実施（58.4%）

(5) 海外代表チームの強化合宿等の受入

(オリンピック・パラリンピック推進課)

1 要旨

東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致活動を行う中で、各市町において東京オリンピック・パラリンピック直前の事前キャンプに限定されない、各国競技団体の強化合宿等の受入れが始まっている。

2 受入の条件

費用負担	・自治体が誘致をした場合、宿泊費や食費、国内交通費、スポーツ施設使用料等を自治体側が負担するが多い。
交流イベント	・スポーツ教室や文化体験など、キャンプ期間中に行われる市民との交流 ・交流イベント実施を条件に、自治体によるキャンプ誘致・受入が行われている。

3 平成30年度の主な強化合宿等の受入状況

時期	市町	相手国・競技	交流内容
4月	焼津市	モンゴルパラ陸上	公開練習、市陸上競技記録会参加等
5月	下田市	アメリカサーフィン	黒船祭参加、地元中学生との交流等
5月～6月	静岡市	台湾陸上	小学校訪問、交流イベント等
6月	浜松市	ブラジル柔道	地元高校生との組手練習等
8月	静岡市	スペインバドミントン	交流イベント、練習観覧等
8月	藤枝市	イタリア柔道	地元学生等との合同練習等
8月～9月	焼津市	モンゴルレスリング	公開実技指導会等
8月～9月	牧之原市	中国サーフィン	小学生訪問、日本文化体験等
9月	牧之原市	アメリカサーフィン	地元サーファーとの交流等
10月	御殿場市	イタリア空手	市民空手大会参加等
10月	富士宮市	スペイン空手	小学校訪問等
11月	浜松市	ブラジル車いすマラソン	地元小学校・特別支援学校生徒との交流等
11月	浜松市	ブラジル柔道	地元高校生との組手練習等
11月	藤枝市	イタリア柔道	地元学生等との合同練習等
11月～12月	伊豆の国市	モンゴル柔道	市少年柔道練成大会参加等
1月～3月	焼津市	モンゴルパラ陸上	日本代表選手合同練習等

(6) オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

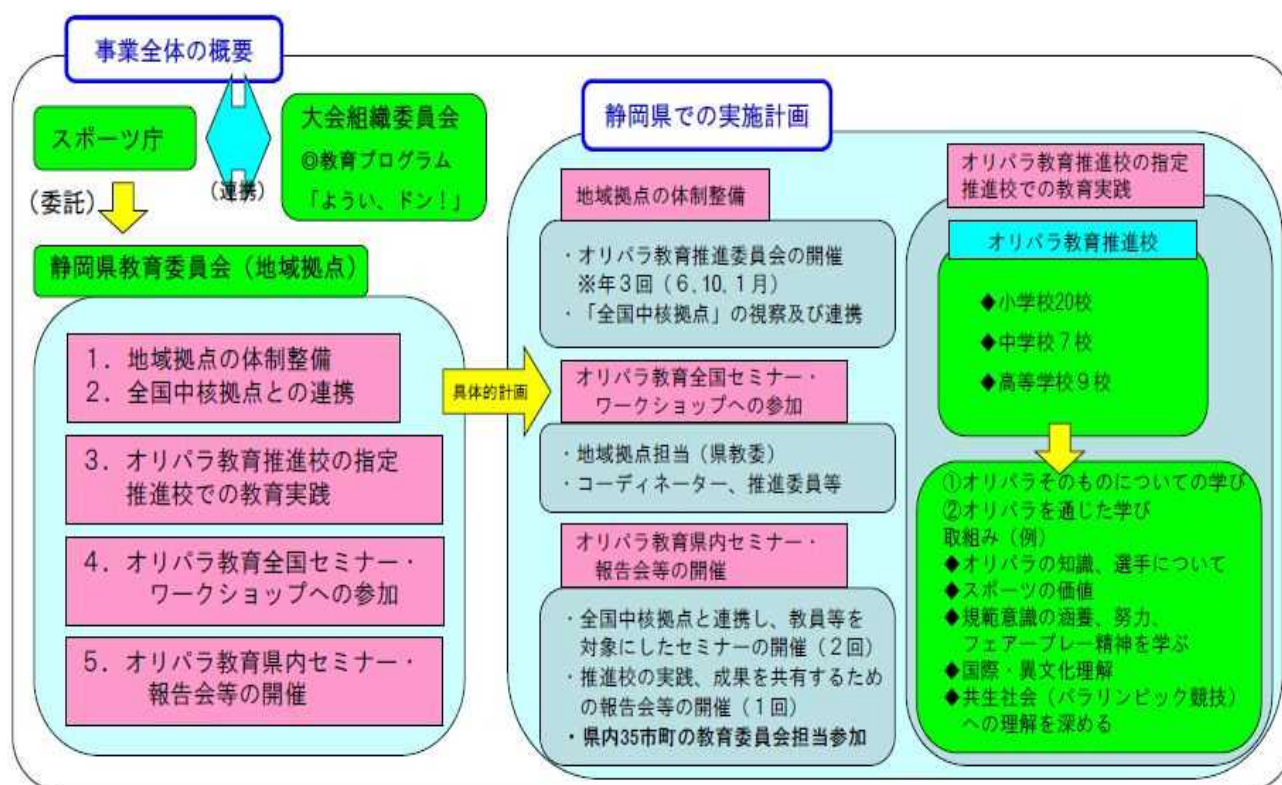
(健康体育課)

1 オリンピック・パラリンピック教育の目的

東京 2020 大会を児童・生徒にとってまたとない貴重な機会と捉え、オリンピック・パラリンピック教育を通して、知・徳・体の調和の取れた人間を育成するとともに、進んで平和な社会の実現 に貢献できる人間を育成する。

また、児童・生徒がスポーツの意義や価値等に対する理解を深め、自らの目標を持って、何事にも挑戦する意欲を高めるとともに、障害者を含めた多くの人の多様性を尊重し、国際的な広い視野を持つことができるようにする。

2 事業概要



(7) 障害者スポーツ応援隊の活動

(障害者政策課)

障害者スポーツを通じて障害者に対する理解を深め、障害の有無によって分け隔てられることのない共生社会を目指し、リオパラリンピック競技大会に出場した本県関係の12名の選手により平成28年度に「障害者スポーツ応援隊」を結成し、学校等での講演活動や競技デモンストレーションを行っている。

○障害者スポーツ応援隊の活動 <平成30年度>

学校名等	月日	時間帯	内容	該当選手
袋井特別支援学校	5月2日	集会	講演及び交流	山本 篤 選手
わかふじスポーツ大会	9月2日	開会式等	開会式出席及び挨拶、表彰	山本 篤 選手 若山 英史 選手
差別解消県民会議	9月3日	会議内	講演	若山 英史 選手
浜松特別支援学校	9月11日	授業中	講演及び実技指導	佐藤 圭太 選手
エコパアリーナ	11月11日	イベント	しずおかパラ スポーツパーク	若山 英史 選手 杉村 英孝 選手
沼津特別支援学校 伊豆田方分校	11月14日	授業中	講演及び実技指導	山口 光男 選手
御殿場市立富士岡小学校	11月29日	授業中	講演	若山 英史 選手
伊豆総合高等学校	12月20日	授業中	講演	若山 英史 選手
掛川特別支援学校	2月4日	集会	講演及び実技指導	杉村 英孝 選手
沼津市立第一小学校	2月6日	集会	講演及び交流	杉村 英孝 選手
静岡市立有度第二小学校	2月7日	集会	講演	若山 英史 選手

○障害者スポーツ応援隊一覧(12名)

競技名	氏名	障害種別	出身地等	リオパラリンピック成績
陸上	佐藤 友祈	身体(車いす)	藤枝市	400m 銀、1500m 銀メダル
	山本 篤	身体(義肢)	掛川市	走幅跳 銀 4×100mリレー 銅 等
	岡村 正広	視覚	御前崎市	マラソン 銅
	佐藤 圭太	身体(義肢)	藤枝市	4×100mリレー 銅メダル 等
	山口 光男	知的	富士市	走幅跳 10位
ボッチャ	杉村 英孝	身体(車いす)	伊東市	混合団体 銀、混合個人 5位
自転車	川本 翔大	身体(義肢)	伊豆の国市	トラック男子個人パシエート3000m(C2) 8位 等
柔道	米田 真由美	視覚	島田市	63kg級(B2)：7位入賞
水泳	鈴木 孝幸	身体(四肢欠損)	浜松市	50m平泳ぎ4位 150m個人トドレ4位 等
車椅子バスケット	藤本 怜央	身体(義肢)	島田市	9位
ウィルチェアラグビー	若山 英史	身体(車いす)	沼津市	混合オープン 銅
車いすテニス	堂森 佳南子	身体(車いす)	吉田町	シングルス：1回戦敗退

2 県の取組事例

国際交流を通じた特色ある教育の推進

1 県の取組（教育委員会）

	項目	内容	頁
1	グローバル人材育成関連事業 【高校教育課】	企業と県で創設した基金を財源とした高校生の海外留学等への支援、企業や大学と連携した先進的カリキュラムを行う高校への支援などを実施	19
2	高校生国際教育旅行推進事業 【高校教育課】	海外への教育旅行を推進するため事前現地調査の支援等を実施	21
3	青少年の国際交流推進事業 【教育政策課】	<ul style="list-style-type: none"> ・日中青年代表交流発展事業 ・モンゴル高校相互交流事業 ・モンゴル教員相互派遣事業 	23
4	静岡県の魅力発信BOOK「Hello World！ Welcome to Shizuoka！」の作成 【教育政策課】	ラグビーワールドカップ 2019 等を契機に増加が見込まれる海外からの旅行者等に対し、中学生が静岡県の魅力を英語で紹介できるリーフレットを作成し、国際交流の機会の充実を図る。	24
5	川根高校とゾーホージャパン(株)の交流 インドサマーキャンプの開催 【高校教育課】	本社内企業大学「ゾーホーユニバーシティ」での IT 研修に、川根高校の生徒が参加し、プログラミング学習やプレゼンテーション、現地の小学校や家庭への訪問などを実施	25

2 県の取組（知事部局）

	項目	内容	頁
1	世界の文化と暮らし出前講座 【多文化共生課】	次代を担う子どもの多文化共理解を推進するため、本県が雇用する国際交流員が県内の小・中・高等学校等へ出張し、母国の文化や暮らしを紹介	26
2	ふじのくに留学生親善大使 【多文化共生課】	県民との交流活動に意欲があり、県内大学等に在籍する留学生を親善大使に委嘱	27
3	ふじのくに多文化共生フェア（アースカレッジ） 【多文化共生課】	NPO、県国際交流協会等と連携して開催。「誰もがセンセイ、誰もがセイト。」をコンセプトに、地域の様々な場で活躍する人が日ごろの思いや活動を紹介	—
4	県内高等教育機関のグローバル化に係る取組への支援 【大学課】	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア等を中心にアジア地域での留学フェアへの参加や現地教育機関等訪問による情報発信 ・グローバル人材育成のために必要な取組等を意見交換するグローバル人材育成懇話会の実施 	29
5	外国人留学生の県内大学等への受入れ促進 【大学課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じた支援（滞在サポート、交流促進、就職支援等） ・中国との短期留学生交流 ・本県への留学意識を喚起するため、アジアの高校生を招聘し、県内大学等を紹介 	29
6	日本人大学生の海外留学支援 【大学課】	<ul style="list-style-type: none"> ・将来県経済界での活躍を希望する大学生等へ奨学金を給付し、留学を支援 ・日本学生支援機構や各国大使館等と連携し、留学支援制度や各国の留学情報等を発信するフェアを開催 	29

グローバル人材育成関連事業

(高校教育課)

○グローバル人材育成基金事業

1 要 旨

国内外で活躍できるグローバル人材の育成を社会総がかりで支援するため、県拠出金及び寄附金により「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、県内の高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進する。

2 基金の概要

(単位：千円)

基金名	区 分	H30 年度末 残高 (見込)	H31 予算	
			積立	取崩
ふじのくにグローバル 人材育成基金	県拠出金	150,681	20,000	40,000
	寄附金、運用益		20,000	
計		150,681	40,000	40,000

3 平成 31 年度事業計画 (40,000 千円)

2016～2020年度までの5年間で900人の高校生及び教職員の海外留学等を支援する。

区 分		内 容
高校生の 海外体験 促進 (留 学)	長期留学	海外の教育機関等で語学などの専門分野の留学を体験 【期間】 1年程度
	県内大学 と連携し た留学	県内大学と連携して、大学が実施する各種留学・語学研修等に 参加 【期間】 1週間以上1か月程度未満
	短期留学	学校、市町、NPO等の民間が実施する語学研修、ボランティ ア活動等に参加 【期間】 1週間以上1か月程度未満
教職員の海外研修		教職員が海外での教育機関等で専門分野や現代的な課題の研 究等を実施 【期間】 1週間以上1か月程度未満
グローバル ハイスクール		学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機 関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定
海外 インターンシップ		県内中小企業の海外工場における就労体験等を実施 【対象】 専門高校等の生徒 【国内研修】 2日間【海外就労体験】 3泊4日
ものづくり等の世界 大会		ロボット競技等のものづくりに関する世界大会へ参加 【対象】 専門高校等の生徒

4 事業実績

区 分		H28 実績 (応募)	H29 実績 (応募)	H30 実績 (応募)
高校生の 海外体験 促進 (留学)	長期留学	5人 (20人)	6人 (12人)	5人 (31人)
	県内大学と連 携した留学	5人+引率1人 (10人)	10人+引率1人 (10人)	29人+引率3人 (40)
	短期留学	23人 (76人)	43人 (67人)	22人 (95人)
教職員の海外研修		6人 (16人)	8人 (8人)	9人 (9人)
グローバルハイスクール		2校 33人 (6校) 掛川西 日大三島	3校 108人 掛川西 日大三島 浜松開誠館	3校 112人 掛川西 日大三島 浜松開誠館

区 分	H28 実績 (応募)	H29 実績 (応募)	H30 実績 (応募)
海外インターンシップ	15 人+引率 3 人	43 人+引率 8 人	36 人+引率 6 人
ものづくり等世界大会	2 人	3 人	0 人
人数計	93 人	230 人	222 人
事業額	18,879 千円	37,993 千円	36,636 千円

○世界にはばたく人材育成事業

急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、高等学校段階から国際競争力を身に付けた人材を育成するため、高校生の留学支援、国際競争力を身に付けたグローバルリーダーを育成する。

事業概要

(単位：千円)

区分	概要	30 当初	31 当初
外部専門機関と連携した英語指導力向上事業	英語によるコミュニケーション能力を有し、グローバル化に対応した人材の育成を強化するために、指導や評価の改善について、外部専門機関と連携した効果的な研修を研修協力校等において実施する。	2,200	— (H31 は他事業に移管して実施)
高校生留学促進事業	高校時代の留学を支援することにより、将来国際的分野で活躍する人材の育成を図る。(海外留学応援フェアの開催、留学費の補助) 平成 31 年度計画 85 人	7,500	7,500
地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)	グローバルな視点を持ってコミュニティを支える地域のリーダーを育成する。(グローバルな社会課題研究のカリキュラム研究開発) (H31：新規 1 校予定)	—	8,000
スーパーグローバルハイスクール	将来的に政治、経済、法律等の分野において国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成 ・教育課程の研究開発・実践等 (H26～30 指定校：三島北 H30 事業終了)	25,000	—
ワールドワイドラーニングコンソーシアム構築推進事業	将来、イノベティブなグローバル人材を育成するため、国内外の大学、企業、国際関係等と共同し、より高度な学びを提供する仕組みを構築する。 (文部科学省新規事業) ※WWL 事業の拠点校：三島北、現在実施内容を調整中。	—	15,000
合 計		34,700	30,500

国際教育旅行の推進

外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身に付けるきっかけとなる海外体験として、高等学校における海外修学旅行の実施を進め、また、海外からの訪日教育旅行を受け入れている。

1 海外への修学旅行

平成 30 年度 訪問先別実施学校数（県内公立高校）（校）

国・地域名	実施校数
台湾	20
シンガポール・マレーシア	5
ハワイ	5
アメリカ	4
オーストラリア	2
イタリア	1
カナダ	1

- ・実施校の実数は 32 校
- ・1 校でコース別に複数の国・地域を訪問する場合は、延べ数としてカウントしている。
- ・訪問日数は 4～6 日

※平成 29 年度 県内公私立高校 実施率 35.5% (全国 1 位) 公立 26 校・私立 23 校
 参加率 23.4% (全国 2 位) 公立 4,607 人・私立 3,127 人
 ((公財)全国修学旅行研究協会「全国公私立高等学校 海外修学旅行・海外研修 実施状況調査報告」H30.10)

2 海外からの受入れ

(1) 平成 30 年度の実績

訪日教育旅行の受入れ

(単位：校・人)

来静校種	全体	小学校	中学校	高等学校	大学	その他
概要						
来静学校数	74 校	16	12	35 校	2	9
児童・生徒数	1,929 人	468	490	829 人	6	136
県内訪問学校数	59 校	12	7	31 校	2	7

来静した学校の国名

(単位：校)

国名	全体	うち高等学校
台湾	22	20
中国	34	3
アメリカ	4	2
タイ	2	1
韓国	2	2
シンガポール	1	1
カナダ	2	2
オーストラリア	4	2
ニュージーランド	1	0
南アフリカ	1	1
デンマーク	1	1
合計	74	35

(2) 学校訪問・交流活動の一般的な内容（県立高等学校の場合）

- | | |
|----------------------|------------------|
| ア 歓迎式 | エ 授業参観（午後：午前と同様） |
| イ 授業参観（午前：可能ならば授業参加） | オ 部活動等の体験 |
| ウ 昼食（合同で） | カ 別れの式 |

※ 半日での交流活動が基本。午前の部であれば、上記ア・イ・ウ・カ、午後の部であれば、上記ア・エ・オ・カを行う。

高等学校における留学生の派遣及び受入数

1 高等学校における外国へ留学生を派遣している学校数及び人数

(1) 公立高校（派遣期間が1年程度のもの）

区 分	H26	H27	H28	H29
学校数	8校	11校	11校	6校
人数	15人	16人	16人	12人

調査対象：県内全日制公立高校 93 校(分校含む) (出典：留学・帰国生徒等に関する状況調査)

(2) 私立高校（派遣期間を問わず1年間の総数）

区 分	H26	H27	H28	H29
学校数	16校	13校	14校	17校
人数	99人	79人	76人	82人

調査対象：県内私立高校 44 校 (出典：私立学校実態調査)

(補足) 主な派遣国名（それぞれの人数）

<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;"> 公立高校：アメリカ（16人）、オーストラリア（7人）、カナダ（7人）、 ドイツ（4人）、ニュージーランド（4人） 私立高校：カナダ（22人）、オーストラリア（22人）、アメリカ（8人） </div>
--

2 高等学校における外国から留学生を受け入れている学校数及び人数

(1) 公立高校（受入期間が1か月以上1年程度のもの）

区 分	H26	H27	H28	H29
学校数	8校	7校	9校	8校
人数	8人	8人	16人	10人

調査対象：県内全日制公立高校 93 校(分校含む) (出典：留学・帰国生徒等に関する状況調査)

(2) 私立高校（受入期間を問わず1年間の総数）

区 分	H26	H27	H28	H29
学校数	12校	12校	14校	13校
人数	72人	46人	54人	49人

調査対象：県内私立高校 44 校 (出典：私立学校実態調査)

(補足) 主な受入国名（それぞれの人数）

<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;"> 公立高校：ドイツ（8人）、オーストラリア（9人）、アメリカ（8人）、 ニュージーランド（4人） 私立高校：タイ（9人）、オーストラリア（7人）、中国（5人）、台湾（5人）、 韓国（5人）、インド（4人）、フィンランド（3人）、アメリカ（2人） </div>
--

青少年の国際交流推進事業

(教育政策課)

1 平成31年度計画

単位：千円

事業名		予算額	内容等
日中青年代表 交流発展事業	相互 交流	3,646	・経済、産業、教育、行政等の各分野における静岡県と中国浙江省の青年リーダー同士の交流を実施 浙江省交流（8月中の8日間）、日中青年各30人 静岡県交流（10、11月中の4日間）、日中青年各30人
モンゴル国ドルノゴビ県との高校生交流事業	派遣	6,326	・モンゴル国(ドルノゴビ県含む)への高校生(25人)派遣学校訪問、体験活動等の実施（7月下旬～8月上旬の6日間）
	受入	2,987	・モンゴル国（ドルノゴビ県含む）高校生（40人）受入学校訪問、体験活動等の実施（10月下旬の8日間）
モンゴル国教員人材育成支援	派遣	—	・モンゴル国への指導主事2人を派遣（9月上旬の7日間）教員教育研修センターでの事前の情報交換に基づく研修、モンゴル教員との意見交換、学校訪問等の実施
	受入	762	・モンゴル国の教員1名の研修受入（11月下旬～月上旬の12日間） 総合教育センターでの研修、学校訪問の実施
合 計		13,721	

2 平成30年度実績

単位：千円

事業名		予算額	内容等
日中青年代表 交流発展事業	相互 交流	3,900	・経済、産業、教育、行政等の各分野における静岡県と中国浙江省の青年リーダー同士の交流を実施 浙江省交流（8月8日～15日の8日間）、日中青年各28人 静岡県交流（11月16日～19日の4日間）、日中青年各28人
モンゴル国ドルノゴビ県との高校生交流事業	派遣	6,591	・モンゴル国(ドルノゴビ県含む)への高校生(25人)派遣学校訪問、体験活動等の実施（7月27日～8月1日の6日間）
	受入	3,400	・モンゴル国（ドルノゴビ県含む）高校生（40人）受入学校訪問、体験活動等の実施（10月22日～29日の8日間）
モンゴル国教員人材育成支援	派遣	—	・モンゴル国への指導主事（2人〔教育政策課1人、総合教育センター1人〕）派遣（9月10日～16日の7日間） 教員教育研修センターでの研修、学校訪問、モンゴル教員との意見交換等の実施
	受入	809	・モンゴル国の教員1名の研修受入（11月26日～12月7日の12日間） 総合教育センターでの研修、学校訪問の実施
合 計		14,700	

静岡県の魅力発信BOOK「Hello World ! Welcome to Shizuoka !」の作成

(教育政策課)

1 概要

ラグビーワールドカップ2019や2020東京オリンピック・パラリンピックを契機に増加が見込まれる海外からの旅行者等に対し、中学生等が静岡県の魅力を英語で紹介できるリーフレット（Hello World ! Welcome to Shizuoka !）を作成し、国際交流の機会の充実を図る。

2 内容

- ・ 8ページ版と4ページ版の2種類を作成し、県教育委員会HPに掲載した。
- ・ 各学校は「8ページ版で生徒が学習し、4ページ版を海外の方との交流の時間に配付する」など、学習場面に応じたデータをダウンロードして活用。

8ページ版	4ページ版	活用方法
世界地図・日本地図（白地図） 世界の言葉でこんにちは		海外からの旅行者と「どこから来たのか」「日本での訪問先はどこか」等、会話のきっかけとして活用
静岡へようこそ（英） 静岡へようこそ（和）	静岡へようこそ（和英）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県の代表的な自然・文化や、魅力ある食材等を紹介 ・ コミュニケーションをより深めるため、「私のおすすめ」欄は自由に記載
おもてなし静岡（和英）	—	



3 今後の展開

- ・ ラグビーワールドカップ学習、オリンピック・パラリンピック学習を推進する学校や、国際交流事業の実施予定がある学校に配付し、活用する。
- ・ 内容については、生徒及び教職員の意見や感想を踏まえて改善する。

川根高校とゾーホージャパン㈱の交流 インドサマーキャンプの開催

(高校教育課)

1 開催の経緯

平成 29 年 4 月、インドに本社を持つ I T 企業ゾーホーの日本法人であるゾーホージャパン㈱が、「I C T を活用したサテライトオフィス・テレワーク推進区域」である本県の川根本町にサテライトオフィスを設置。

その後、ゾーホージャパン㈱から川根本町などに「インド・チェンナイ市にある本社内企業大学『ゾーホーユニバーシティ』での I T 研修に、川根高校の生徒を受け入れたい」との提案があり、平成 30 年 8 月に実現した。



2 インドサマーキャンプの概要

- (1) 期 間 平成 30 年 8 月 12 日～26 日
- (2) 参加者 川根高校の生徒 4 名 ※本県の「グローバル人材育成基金」利用
- (3) 内 容 ゾーホーユニバーシティでのプログラミング学習やプレゼンテーション、現地の小学校や家庭への訪問 など



3 開催の成果等

- ・参加者は、帰国後に行われた「校内報告会」や「グローバル人材育成事業成果報告会」で発表し、同世代の仲間たちとその成果を共有。
- ・川根高校においても、インドとの交流実績がある高校は希少性が高いことから、学校の魅力を発信していく上での大きな柱となっている。
- ・参加者の 1 人は、ゾーホージャパン㈱の入社試験に合格、同社での高卒採用第 1 号として今春から勤務している。
- ・今年度もサマーキャンプの開催を予定している。

多文化共生への架け橋「世界の文化と暮らし出前教室」

(多文化共生課)

1 目的

次代を担う子どもの多文化共生理解教育を推進するため、本県が雇用する国際交流員が、県内小・中・高校等へ出張し、母国の文化や暮らしを紹介する。

2 事業概要

(1) 平成 31 年度事業実施予定

講 師 国際交流員

方 法 県教委を經由または直接の案内送付により、各市町教委や私立学校からの要望を随時取りまとめ、訪問を行っていく。

その他 案内には、県出前教室のほか、参考として「ふじのくに留学生親善大使」事業及び J I C A 「国際協力講座」も併せて周知する。

(2) 授業内容

授業の 基本的構成	① 講師の自己紹介 ② 対象国の紹介(パワーポイントや写真を活用) ③ クイズやダンス等で理解を深める。 ④ 生徒からの質問に答える。
主な紹介 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各国の概要 ・ 学校生活、世界遺産、動植物、食文化 ・ 対象国語での簡単なあいさつ 他

(3) 平成 30 年度実績 (平成 31 年 1 月 31 日現在)

国名	件数	人数	内訳	件数
ブラジル	13 件	923 人	小学校	18 件
アメリカ	3 件	108 人	中学校	9 件
韓国	14 件	1,055 人	高校	11 件
フィリピン	13 件	721 人	大学	1 件
インドネシア	16 件	1,021 人	特別支援学校	5 件
シンガポール	7 件	384 人	その他	22 件
合 計	66 件	4,212 人	合 計	66 件

(4) 子ども及び教師からの反応

- ・ 現地の楽器や遊びを実際に体験できて、とても興味深かった。
- ・ (地理的に) 比較的近い国であっても、様々な文化的な違いがあることが分かった。
- ・ 日本に住む外国人とよりよい関係を築くためにもっと外国のことを知るべきだと感じた。

(5) 成果等

- ・ 多くの子が外国に興味を持つ契機となり、グローバル人材育成の一助を担った。
- ・ 多くの子どもにとって多文化を理解するととても良い刺激になった。

ふじのくに留学生親善大使

(多文化共生課)

1 目的

県民と外国人留学生との交流を図り、本県の国際化を推進するとともに、これら留学生の帰国後の活動を通じて、静岡県と海外との情報の受信・発信及び世界各国との友好交流を促進する。

2 事業概要

国際交流活動に意欲があり、帰国後も本県との交流の架け橋となることが期待される県内大学等に在籍する外国人留学生を「ふじのくに留学生親善大使」に委嘱する。

(1) 活動内容

【在日中】本県についての研修、地域交流事業への参加、学校訪問等

【帰国後】本県紹介や友好交流事業仲介、本県国際化のための情報収集・提供

(2) 委嘱人数

20名程度（4月～6月に募集・選考、平成31年6月中旬に委嘱式実施予定）

(3) 委嘱実績：平成30年度までの累計 527人 (38か国1地域)

年 度	7～10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計	
委嘱者数 (人)	各25	27	26	26	24	22	23	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	527	
国・地域別委嘱者数	中 国	28	12	14	17	13	11	14	11	13	8	8	8	10	9	10	8	9	9	10	7	6	235
	ベトナム	4	3	2	1	3	4	3	1	2	2	2	2	1	6	2	6	5	2	3	6	6	66
	インドネシア	4	1	1	3	2	3	1	4	2	3	2	4	2	-	1	-	-	2	4	1	3	43
	韓 国	10	3	2	2	2	2	2	1	-	-	1	1	4	1	1	2	2	3	2	-	-	41
	スリランカ	3	1	1	-	2	-	1	2	3	3	2	2	1	2	-	-	-	-	-	2	-	25
	バングラデシュ	5	1	2	1	-	-	1	-	-	2	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	16
	台 湾	6	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	13
	ネパール	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	9
	その他	37	4	3	2	2	1	1	1	-	2	2	1	1	1	4	3	3	4	1	4	2	79

(4) 主な参加事業

年度	実績計	参加事業内容
H29	参加事業延 252 件 参加者延 409 人	<p>＜学校訪問＞島田市立島田第二小学校、島田市立初倉中学校、三島市立山田小学校、藤枝東高校、沼津西高校等</p> <p>＜行政関係事業＞日中青年代表交流セミナー意見交換会、「国際交流バスツアー」、「留学生就職支援講座」、アースカレッジ、掛川国際交流フェスティバル、日中交流会等</p> <p>＜地域交流事業＞大道芸ワールドカップ、企業訪問、防災訓練等、袋井市クラウンメロンマラソン中国語通訳ハラル料理体験等</p> <p>＜親善大使事業＞タウンミーティング (6/21 15 人)</p>
H28	参加事業延 236 件 参加者延 458 人	<p>＜学校訪問＞島田市島田第二小学校、島田市六合東小学校、K T C 中央高等学院、藤枝東高校等</p> <p>＜行政関係事業＞日中青年代表交流事業、国際理解教育研修会、県留学生支援ネットワーク「国際交流バスツアー」、「留学生就職支援講座」、アースカレッジ、ベトナム人留学生日本文化体験事業等</p> <p>＜地域交流事業＞日中文化の集い、企業訪問、袋井市クラウンメロンマラソン中国語通訳等</p> <p>＜親善大使事業＞タウンミーティング (6/17 19 人)</p>

県内大学等でのグローバル人材育成への支援

(大学課)

1 要 旨

県内高等教育機関のグローバル化支援や、外国人留学生の受入、日本人学生の海外留学を促進することにより、地域や世界に貢献できるグローバル人材の育成を図る。

2 平成 31 年度事業計画 (19,830 千円)

区分		内容
大学グ ロー バル 化支 援	留学情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の教育機関を訪問して県内大学を広報 ・ 海外での留学フェア（東南アジア等2か国）の実施
	懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大学の学長等との意見交換会の開催
	留学・留学生支援機能の設置(新規)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふじのくに地域・大学コンソーシアムにコーディネーターを配置し、大学のグローバル化や留学生・日本人学生の海外留学を支援 <p><コーディネーターの業務></p> <ul style="list-style-type: none"> ①海外大学の情報収集、海外への広報 ②生活ルール・交通安全講習会等の開催 ③日本人学生の海外留学のための働きかけ
	国際学生寮（混住型）モデル事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県が中心となって、県内適地をモデルに寮設置などのあり方について検討
留 学 生 支 援	留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じた生活支援等 <ul style="list-style-type: none"> ①生活ルール、交通安全講習会の開催（新規） ②複数の大学の留学生が交流する機会の提供 ③就職支援講座、インターンシップ等の提供
	本県への留学促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浙江省との短期留学生相互派遣（12人程度） ・ アジアの高校性等を招聘し、県内大学等と交流
海 外 留 学 支 援	産学官連携留学促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官が連携した日本人学生の海外留学促進 <p style="margin-left: 20px;">民間企業等からの寄附と国・県からの助成をもとに、県内高等教育機関に在籍する学生に奨学金を給付し留学を支援</p>
	海外留学応援フェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外留学応援フェアの開催 <p style="margin-left: 20px;">日本人学生向け海外留学説明会の開催</p>

3 事業実績（平成 30 年度）

区分		内容							
大学グローバル化支援	留学情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・日本留学フェアへの参加、現地教育機関等訪問による情報発信 ①インドネシア…ジャカルタ 9月30日 個別相談件数 90 件、資料配布枚数 200 枚 ②モンゴル…ウランバートル 9月29日、30日 個別相談件数 135 件、資料配布枚数 162 枚 ③ベトナム…ホーチミン 10月5日、ハノイ 10月6日 個別相談件数 100 件、資料配布枚数 200 枚 							
	懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・主に静岡市内の大学学長等を構成員とした懇話会を設置し、グローバル人材育成のために必要な取組等について意見交換 ・8月29日 第1回 グローバル人材育成拠点に求められる機能等 ・3月5日 第2回 今後のグローバル人材育成に係る取組等 							
留学生支援	留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じた生活支援等 <table border="1"> <tr> <td>滞在サポート</td> <td>・ビザコンサルティングサービスの実施等</td> </tr> <tr> <td>交流推進</td> <td>・留学生国際交流イベントの開催等</td> </tr> <tr> <td>就職支援</td> <td>・就活支援講座、企業交流会・面談会の開催 ・インターンシップの実施等</td> </tr> </table>	滞在サポート	・ビザコンサルティングサービスの実施等	交流推進	・留学生国際交流イベントの開催等	就職支援	・就活支援講座、企業交流会・面談会の開催 ・インターンシップの実施等	
	滞在サポート	・ビザコンサルティングサービスの実施等							
交流推進	・留学生国際交流イベントの開催等								
就職支援	・就活支援講座、企業交流会・面談会の開催 ・インターンシップの実施等								
本県への留学促進	<ul style="list-style-type: none"> ・浙江省との短期留学生交流 <table border="1"> <tr> <td>受入</td> <td>9月25日～12月18日</td> <td>県立大学4名、静岡大学8名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">派遣</td> <td>10月8日～12月24日</td> <td>浙江理工大学1名</td> </tr> <tr> <td>3月12日～3月26日</td> <td>浙江万里学院1名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの高校生を招聘し、県内大学等を紹介 日 程：11月7日～11月14日（8日間） 人 数：9名（高校生8名+引率1名） 訪問先：静岡県立大学、静岡大学、浜松医科大学、国立遺伝学研究所、順天堂大学保健看護学部、県庁 等 	受入	9月25日～12月18日	県立大学4名、静岡大学8名	派遣	10月8日～12月24日	浙江理工大学1名	3月12日～3月26日	浙江万里学院1名
受入	9月25日～12月18日	県立大学4名、静岡大学8名							
派遣	10月8日～12月24日	浙江理工大学1名							
	3月12日～3月26日	浙江万里学院1名							
海外留学支援	産学官連携留学促進	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官が連携し日本人学生の海外留学を支援 応募：4大学等7人、採用4大学等6人 							
	海外留学応援フェア	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学応援フェアを開催 日 時：12月16日（日）午後1時から午後4時15分 会 場：グランシップ10階 内 容：有識者による基調講演、12か国・地域の大使館等による留学相談、留学経験者による体験談等 来場者数：230人 							

高等教育機関等における留学生の数

1 外国人留学生の状況

(1) 本県の留学生の推移 (各5月1日現在) (単位: 人)

機関名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
高等教育機関	1,217	1,030	878	864	961	1,076
専修学校	365	416	553	636	780	952
日本語教育機関	605	757	835	873	1,080	1,327
総合計	2,187	2,203	2,266	2,373	2,821	3,355

(2) 全国の留学生の推移 (各5月1日現在) (単位: 人)

機関名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
高等教育機関 専修学校 別科	135,519	139,185	152,062	171,122	188,384	208,901
日本語教育機関	32,626	44,970	56,317	68,165	78,658	90,079
総合計	168,145	184,155	208,379	239,287	267,042	298,980

(独立行政法人日本学生支援機構外国人留学生在籍状況調査より)

※別科とは、我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設

(3) 留学生の出身国別の状況 (各5月1日現在) (単位: 人)

国・地域	静岡県 (30年度)		国・地域	全国 (30年度)	
	留学者数	前年度		留学者数	前年度
1 ベトナム	1,064	801	1 中国	114,950	107,260
2 中国	550	586	2 ベトナム	72,354	61,671
3 ネパール	392	293	3 ネパール	24,331	21,500
4 ミャンマー	346	283	4 韓国	17,012	15,740
5 スリランカ	319	215	5 台湾	9,524	8,947
6 インドネシア	250	261	6 スリランカ	8,329	6,607
7 バングラディッシュ	89	88	7 インドネシア	6,277	5,495
8 韓国	71	68	8 ミャンマー	5,928	4,816
その他	274	226	その他	40,275	35,006
合計	3,355	2,821	合計	298,980	267,042

2 日本人留学生の状況

(1) 県内高等教育機関の日本人留学生推移 (単位：人)

機関名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
県内高等教育機関	620	861	579	585	526	904

(2) 全国の高等教育機関等の留学生推移 (単位：人)

機関名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
全国高等教育機関等	65,373	69,869	81,219	84,456	96,853	105,301

(独立行政法人日本学生支援機構日本人学生留学状況調査より)

(3) 主な留学先・留学者数 (単位：人)

国・地域	静岡県 (29年度)		全国 (29年度)	
	留学者数	前年度	留学者数	前年度
1 アメリカ合衆国	141	141	19,527	20,214
2 カナダ	77	77	9,440	8,908
3 台湾	81	23	5,187	4,238
4 韓国	68	53	7,006	6,489
5 スペイン	41	18	—	—
6 イギリス	40	26	5,865	5,840
7 中国	39	27	7,144	5,787
8 オーストラリア	37	22	9,879	9,485
その他	380	139	41,253	35,892
合計	904	526	105,301	96,853

※「—」は全国で10位以内に入っていないため公表されていない

3 県の取組事例

県立高校における魅力ある教育環境の充実

	項目	内容	頁
1	魅力ある学校づくり 推進事業 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下記(1)～(3)を実施し、県立高等学校の文武芸三道の鼎立を図る。 (1) 技芸を磨く実学の奨励 (2) 知性を高める学習の充実 (3) グローバル教育の推進 	35
2	スーパーサイエンス ハイスクール 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省は、高等学校等の理数系教育に関する教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため、理数系教育に関する教育課程等に関する研究開発を行う高校をスーパーサイエンスハイスクールに指定している。 ・ 本県では磐田南、清水東、浜松工業、静岡市立、静岡北(私立)の5校が過去や現在において指定を受けている。 	38
3	サイエンススクール 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理数科教育の更なる充実を図るため、得意分野を中心に確かな学力を持ち、日本の次代を担う人材を育成することを目的として、9校をサイエンススクールに指定している。 ・ サイエンススクールは、その目的を達成するために、大学、研究施設との連携による研修や研究体験を実施することにより、本物に触れて最先端研究への関心を高めるとともに、小中学生を対象とした科学教室を実施することにより、学問の本質に気づき、伝え、教えることの楽しさを実感させる教育活動を実践する。 	—
4	高校生アカデミック チャレンジ(高大連 携推進)事業 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理数科や職業系専門学科等を設置する高校と大学との連携を一層強化し、高校生に高度な学問の一端に触れたり、研究体験や活動を行ったりする機会を提供することにより、全県から専門分野で卓越した資質を有する生徒を発掘し、その意欲・能力を伸張することで、高校在学時から専門性を有し国際科学オリンピックや学会発表等で活躍する人材育成を推進する。 	—
5	高校教育民間活力導 入推進事業 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や産業界と連携した組織的・体系的なキャリア教育を推進するとともに、高等学校において企業等と連携し、高度な知識や技能を有する外部講師を積極的に学校に招へいし、先端的な研究に取り組んだり、高度な資格取得に挑戦したりすることによって、社会の変化に柔軟に、かつ主体的に対応できる能力と、産業界で必要となる高度な知識・技能を身につけ、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する。 	—

	項目	内容	頁
6	科学の甲子園 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 理数教育の推進と科学好きの裾野を広げるために、県内の高校生を対象に「科学の甲子園静岡県大会」を開催し、全国大会に出場する静岡県代表チームを選抜する。 	—
7	地域との協働による 高等学校教育改革推進事業 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 高校と自治体、大学、産業界等が協働して地域課題解決のための探究的な学びを通して、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付け、将来、地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から支えることのできる地域人材を育成する。 本年度から文部科学省指定校として、熱海、榛原の2校が研究に取り組む。 	—
8	「地域学」推進事業 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携して重点的に取り組んだ指定校（県立高校 10校）の取組内容を冊子にまとめ、各校の状況に応じて地域の特色を学ぶ取組を県立高校すべてにおいて進める。 	39
9	学びを広げるICT 活用事業 【教育政策課】	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、これからの時代に求められる資質・能力を有する人材を育成するため、全ての県立学校へ平成33年度までにICT機器を導入し、ICTを効果的に活用した授業を展開する。 遠隔教育の在り方を研究するとともに、遠隔通信システムを活用して他校や県内大学と交流・連携していくことで、学校の魅力化を図ると同時に、教育環境の向上を目指す。 	40
10	ふじのくに魅力ある 学校づくり推進計画 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 急激に変化する社会の中で、生徒の実態や地域の実情等を踏まえた魅力ある学校づくりを推進するため、今後10年間程度を見通した計画を策定。 	42
11	県立高校における新 学科等の調査・研究 【高校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある高等学校の実現に向け、県立高等学校における新たな学科（スポーツ、演劇、観光）の設置等に向けた研究を行う。 	48

魅力ある学校づくり推進事業費

(高校教育課)

1 要 旨

「魅力ある学校づくり推進事業」(下記(1)～(3))を実施し、県立高等学校の文武芸三道の鼎立を図る。

(1) 技芸を磨く実学の奨励

- ・「生きる力」を身に付ける実学を奨励すべき。
- ・総合教育会議や実践委員会で議論(農水商工に加え、スポーツや芸術)。
- ・人手不足の中、有為な人材の輩出が求められている。
- ・県内企業は、基礎学力とコミュニケーション力の育成を期待。

(2) 知性を高める学習の充実

- ・未知の状況を切り拓いていく探究的な学力を育成すべき。
- ・迫りくる高大接続改革(来年度入学生から)への対応が喫緊の課題。
- ・スマホ利用時間が長く、家庭学習時間の確保が課題。

(3) グローバル教育の推進

- ・国際社会で活躍できる人材を育成すべき。
- ・新しい大学入試(英語民間テスト活用)への対応が課題。
- ・英語4技能(特に「話す・聞く」)の育成が不可欠。
- ・総合教育会議、実践委員会で、国際バカロレアの導入について協議。

2 学力向上に関する事業実施の背景

(1) 「静岡県教育振興基本計画」(平成30年度～平成33年度)

ア 「有徳の人」づくり宣言

『文・武・芸』三道の鼎立を実現」を第一に掲げている。

イ 第1章の1 「知性を高める学習」の充実(引用)

子供たちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を身に付させるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力を向上させます。

高等学校では、学習指導要領に基づいた確かな学力の向上に加え、「高校生のための学びの基礎診断」や「大学入学共通テスト」への対応も求められています。

(2) 高大接続改革

- ・平成30年度入学生から対象となり、知識・技能を重視した従来の入試制度から、思考力・判断力・表現力を測る制度へと改革される。
- ・大学入試センター試験は、大学入学共通テストとなり、思考力を問う問題や国語・数学への記述式問題の導入、英語の民間試験活用が予定されている。
- ・主体性・多様性・協働性を測るために、各大学の個別選抜においては、小論文、調査書、プレゼンテーションが重視されるようになる。
- ・推薦入試やAO入試においても、学力検査を課すようになる。

(3) 校長協会と連携した事業実施

- ・静岡県立高等学校等教育振興推進本部から「指定校制度による学力向上対策」の実施を要望され、教育委員会が立案した。

3 平成 31 年度事業計画（予算額：100,000 千円）

区 分		概 要
技芸を磨く実学の奨励	専門高校（農水工商等）の充実	民間熟練技能者を活用した実習指導、生徒及び教員の資格取得支援による専門性の向上、県外大会への派遣による専門性の向上、マーケティング戦略等の研究推進
	新しい専門学科の研究	スポーツ科、演劇科、観光科の設置に関する研究
	過疎地域の学校への支援	部活動の活性化や地域連携等の取組による学校のさらなる魅力化の向上
知性を高める学習の充実	進学重点コアスクール	大学研究室や民間講師等による専門的学力の向上、高大接続改革への対応
	学力向上コアスクール	大学や地元自治体と連携した探究活動等による学力の向上
	学力進展コアスクール	地元大学生等を活用した自主学習会等による学力の向上
グローバル教育の推進	英語教育コアスクール	海外姉妹校とのオンライン交流やイングリッシュキャンプ等による学力の向上
	国際バカロレア調査研究	I B 認定校への教員派遣、視察・講習会参加による国際的視野の育成
	英語ディベート学習	英語 4 技能（聞く・話す・読む・書く）の育成

コアスクール事業

(高校教育課)

1 概要

平成30年度から新規事業として、魅力ある学校づくり推進事業を実施している。そのうち、「知性を高める学習の充実」を目指して、「進学重点コアスクール」、「学力向上コアスクール」、「学力進展コアスクール」を、「グローバル教育の推進」を目指して、「英語教育コアスクール」を指定した。

2 指定校と予算措置の状況

応募総数52校のうち、教育的効果や独自性などの観点から延べ39校を指定した。交付額については、各学校一律とせず、計画書の内容を踏まえて濃淡を付けた。

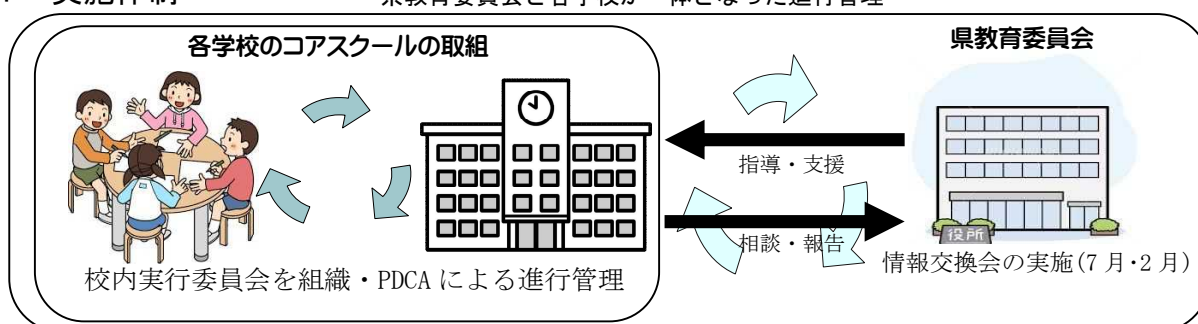
項目	応募数	採択数	指定校名(カッコ内は交付額。単位は万円)
進学重点	11校	11校	静岡東(200)、沼津東(150)、浜松北(130)、富士(130)、藤枝東(130)、浜松西(110)、韮山(110)、静岡(110)、掛川西(100)、清水東(100)、磐田南(100)
学力向上	19校	11校	榛原(200)、島田(150)、富士東(130)、静岡城北(130)、下田(130)、清水南(110)、藤枝西(110)、浜北西(110)、三島南(110)、焼津中央(110)、浜松南(100)
学力進展	16校	11校	浜松湖北(200)、浜松湖東(150)、袋井商業(130)、熱海(130)、島田工業(130)、静岡西(110)、藤枝北(110)、沼津城北(110)、金谷(110)、裾野(100)、湖西(100)
英語教育	6校	6校	三島北(130)、掛川西(130)、浜松湖南(130)、吉原(130)、浜松北(100)、富士宮西(100)

3 各校が定めたテーマに応じた特徴的な取組

項目	取組
進学重点	○中学生を対象とした科学教室、伊豆ジオパークとの連携(沼津東) ○医療系学部進学に対応した高度で専門的な講義(清水東)
学力向上	○大学との連携によるプランクトン研究、地域研究冊子の作成(下田) ○地元自治体等との連携による地域の課題把握と改善方法の提案(榛原)
学力進展	○フルーツパークの一日運営、生徒を講師とした地域開放講座(浜松湖北) ○地元商店街へのアンテナショップ開設に向けた授業実践(藤枝北)
英語教育	○海外の高校とのSkype等を活用したオンライン交流(掛川西) ○専門家等と連携した学習プログラムの開発・実践(三島北)

4 実施体制

県教育委員会と各学校が一体となった進行管理



スーパーサイエンスハイスクール

(高校教育課)

1 要旨

文部科学省は、高等学校及び中高一貫教育校の理数系教育に関する教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため、理数系教育に関する教育課程等に関する研究開発を行う高等学校等をスーパーサイエンスハイスクールに指定して研究促進を図っている。

2 事業内容

(1) 目的

学習指導要領の特例とするカリキュラムの開発、大学や専門研究機関等との連携によって、専門的な研究者や学問を深める人材の育成を図るとともに、本県全体の理数系教育の向上、発展に資する。

(2) 主な取組内容

「高度な設備や機器を組み入れたカリキュラムやシラバスの研究開発」「数学、科学オリンピックへの参加」「大学、企業及び研究機関との連携方策の研究」「理数系の著名な研究者を招いての講演会の開催」「校内ゼミや機器分析講座の実施」「物理と数学を融合した教育内容の開発」「研究成果を情報発信する仕方の研究」「英語による理科の授業」等

3 研究内容

(1) 清水東高校

- ア 課題発見解決能力・論理的思考力・創造性を育てる学校設定科目及び他の教科・科目との連携の在り方の研究
- イ 英語によるコミュニケーション能力、国際感覚を育てる既存の枠を超えた教育課程の研究
- ウ 専門的な学問への興味・関心・意欲を高めるとともに、自身の生き方・在り方を考える力を育てる大学・研究機関・企業等との連携の在り方の研究
- エ 科学的なものの見方・考え方を養い、コミュニケーション能力を高め、科学に対する自己理解を深めるための小・中学校、科学館との連携及び教育課程等の研究

(2) 浜松工業高校

- ア 「工業技術基礎」の内容で工業に潜む数学・理科の要素について実験実習を通して実感する。
- イ 学校設定科目「理工研究」で、関連学部の大学による講義、実験実習、実際の論文や検証実験、数学・理科の公式の使われ方などを通して科学的分析力を学ぶ。
- ウ 「課題研究」で論文（英文等）の輪講、数学・理科を利用した工学的課題の解決や発表会の実施。
- エ 「企業研究」で企業活動や製品開発活動について研究し、課題解決の特徴を発見する。

「地域学」推進事業

(高校教育課)

1 要旨

- (1) 地域学とは
地域の自然、人、事象などを学ぶことによって、郷土観を確立し、ひいては地域活性化や地域づくりを図っていく学習活動。
- (2) 目的
地域を理解し、地域に貢献する人材を育成するため、伊豆ジオパーク、富士山、浜名湖等、学校周辺地域の特色を生かした学習活動を推進する。
- (3) 平成30年度指定校による取組テーマ
- ア 伊豆半島ジオパーク (県立伊豆総合高校、県立松崎高校)
 - イ 富士山 (県立裾野高校)
 - ウ 地域と国際化 (県立吉原高校)
 - エ 静岡市駿河区 (県立駿河総合高校)
 - オ 菊川市 (県立小笠高校)
 - カ SCH: スーパー地域密着型高等学校 (県立相良高校)
 - キ 地元行政との連携 (池新田高校)
 - ク 郷土芸能、防災 (横須賀高校)
 - ケ 郷土の環境と食材 (県立天竜高校春野校舎)

2 県内公立学校における地域に関する学習状況

県立高校においては、地域の特色を知り、継承していくことなどを学ぶ教育を次のとおり実施している。

教科・科目等	教科・科目等	内容等
	地理歴史	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 世界史及び日本史又は地理を必修 ▪ 平成34年度以降に日本史と世界史の近現代史を合わせた新しい歴史科目の設置を検討
課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 三保の松原の松葉 (静岡農業) ▪ 志太の発酵文化 (藤枝北) ▪ 茶草場農法 (磐田南) など 	
学校設定科目	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 観光資源 (熱海) ▪ 静岡県の文学、伊豆の経済 (土肥) ▪ 伊豆の自然 (田方農業) ▪ 茶文化 (静岡農業)、茶業 (小笠) ▪ 木の文化 (天竜) ▪ 森町の伝統工芸 (遠江総合) など 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 西豆学 (松崎) ▪ 坦庵公に学ぶ (韮山) ▪ 茶文化探究 (小笠) ▪ 南伊豆ゼミナール (南伊豆分校) など 	
特別活動	項目	内容等
	部活動 (自然科学等)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 静岡県における歴史地震 (磐田南) ▪ 佐鳴湖浄化 (浜松北) ▪ 外来生物の拡散 (浜松湖東) など
	部活動 (郷土研究等)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 郷土芸能 (横須賀など7校) ▪ 郷土研究 (新居など7校)

学びを広げるICT活用事業

(教育政策課)

1 概要

(1) ICT活用

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、これからの時代に求められる資質・能力を有する人材を育成するため、全ての県立学校へ平成33年度までにICT機器を導入し、ICTを効果的に活用した授業を実現する。

(2) 遠隔教育

遠隔通信システムを活用して他校や県内大学との交流・連携していくことで、学校の魅力化を図ると同時に、教育環境の向上を目指す。

2 予算額

(単位：千円)

区分	整備内容	H28 補正	H29		H30 当初	H31 当初
			当初	補正		
ICT活用	プロジェクター 無線LAN タブレット端末	7,666	33,660	50,000	170,000	129,000
遠隔教育	遠隔通信システム	1,334	1,340	0	0	0
合計		9,000	35,000	50,000	170,000	129,000

3 整備規模

区分	整備内容	整備規模
高等学校	プロジェクター	全普通教室に常設(天吊)
	タブレット端末	40台(16クラス以上は80台)
	無線LANアクセスポイント	3クラスに1台(移動型)
特別支援学校	プロジェクター	学年1台(※小規模校は学部1台)
	タブレット端末	8台
	無線LANアクセスポイント	各校1台(移動型)
中山間地域校 総合教育センター	遠隔通信システム	1式
整備対象校	ICT支援員	整備翌年度に年5回程度

※小規模校(静岡南部/視覚・聴覚/小中学部の分校)

なお、無線LANアクセスポイントの整備は平成30年度までに完了。

4 整備計画

(単位：校)

区分	H25※1	H28 補	H29 当	H29 補	H30※2	H31	H32	H33	計
高等学校	1	1	9	9	16	16	17	17	90
特別支援学校			3		8	10	12	7	40
遠隔通信システム		高校1	センター1						2

※1 平成25年度 清流館高校の開校に合わせて整備

※2 平成30年度 全県立学校に無線LANを整備

5 整備済校

区分	校種	H28 補正	H29		H30 当初
			当初	補正	
ICT 活用	高校	川根	下田 南伊豆分校 松崎 稲取 土肥分校 春野校舎 佐久間分校 清水南 浜松西 9校	田方農業 沼津工業 沼津商業 静岡農業 科学技術 静岡商業 磐田農業 浜松工業 浜松商業 9校	熱海 伊豆総合 韮山 富士 御殿場南 吉原工業 清水東 静岡 焼津水産 島田工業 小笠 掛川西 天竜 浜松湖北 浜松北 浜松城北工業 16校
	特支		沼津視覚 西部 御殿場 3校		静岡視覚 浜松視覚 沼津聴覚 天竜 静岡南部 東部 藤枝 浜北 8校
遠隔 教育	川根		総合教育センター		

6 取組内容

(1) ICT活用

高等学校では新学習指導要領対応型の授業改善を行っており、特別支援学校では障害の程度に応じた学習機会の提供を行っている。また、学校における活用事例を、静岡県での授業づくりDBで公開し他校へ広げていく。

(2) 遠隔教育

遠隔通信システム導入校5校（川根、伊豆総合、土肥分校、浜松湖北、佐久間分校）において、学校の魅力化、遠隔授業に取り組んでいる。

年度	種別	遠隔教育の取組内容	実施回数
平成 29 年度	大学との交流	・川根高校の英語授業で静岡大学留学生と交流 ・大学の出前講座を受講	6回
	遠隔活用促進会議	遠隔通信システムを用い、教職員や生徒同士がシステムの活用を協議	5回
	模擬遠隔授業等	川根 ⇄ 総合教育センター間 8回、川根 ⇄ 他校 7回 本校 ⇄ 分校間 24回	39回
	生徒交流	・自校の特徴的な取組（商品開発等）や文化祭等の学校行事、部活動を紹介し、意見交換	6回
	会議	・本校 ⇄ 分校間での合同職員会議、学校評議委員会 ・災害時の本校と分校との対策会議 など	19回
	研修	・本校 ⇄ 分校間での合同校内研修 ・総合教育センター研修を遠隔で受講	9回
	学校行事	本校校長から分校生徒への講話等	2回
平成 30 年度	大学・企業との交流	・大学の講義を受講 ・ゾーホージャパン株式会社内大学生（インド）との英語交流	2回
	模擬遠隔授業等	・川根 ⇄ 総合教育センター間 38回 ・本校 ⇄ 分校間 33回	71回
	研修	・総合教育センター研修を遠隔で受講	6回

7 ICTの活用効果

検証校における教員、児童生徒アンケート	教員		児童生徒	
	児童生徒の興味関心・学習意欲	児童生徒にとって分かりやすい説明	授業に集中して取り組むことができる	授業の内容がよく分かる※
川根・清流館	97.0%	97.0%	82.6%	81.3%
清水南・浜松西	100.0%	95.9%	86.9%	91.0%
中山間地域校（7校）	98.4%	99.2%	84.4%	86.7%
特別支援学校（3校）	98.2%	97.3%	92.6%	88.9%
計	98.4%	97.6%	84.8%	86.6%

※県の基準値を上回っている。

<参考値> 「授業の内容がよく分かる」と答える児童生徒の割合（高校）

○目標値：75% ○実績：73.1%

「有徳の人づくりアクションプラン（第2期計画）」より

8 課題・検討事項

- (1) ICT活用におけるICT機器導入校への操作・活用方法の支援
- (2) 遠隔教育における通信可能校の拡大、遠隔授業実現に向けての制度等の検討

ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画 (静岡県立高等学校第三次長期計画)

(高校教育課)

1 概要

急激に変化する社会の中で、生徒の実態や地域の実情等を踏まえた魅力ある学校づくりを推進するために、今後10年間程度(2028年度)を見通した「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画(静岡県立高等学校第三次長期計画)」を平成30年3月に策定した。

2 計画の主なポイント(基本方向)

○ 「魅力あふれる高等学校」の実現

中高一貫教育	適正配置を踏まえた新たな設置の検討
普通科	生徒の実態に応じた特色化、教育課程の編成 キャリア教育、進学指導、特色ある類型、学習支援の充実
専門学科	「文・武・芸」三道の鼎立を具現化する学科等の設置 グローバル人材の育成のための学科等の設置 「技芸を磨く実学」の奨励を進める学科等の充実
総合学科	多様な進路希望への対応 自己の進路への自覚を深めさせる学習内容の充実
定時制・通信制	単位制による昼間・夜間を併置する定時制高校の設置 ICTを活用した通信教育システムの研究・開発 企業等と連携した就労支援の充実

○ 「地域の実情等を踏まえた高等学校」の在り方

中山間地域等の小規模校	地域資源・人材の活用、多様な学習機会の確保 ICTを活用した遠隔教育システムの導入 自治体と連携した全国募集の実施と特色ある高校の実践
全日制課程の適正配置等	1学年6～8学級を適正規模とし、4学級以下は、新しい魅力を持った新構想高校へ発展的に改編を検討(過疎地域等は弾力的な対応)

○ 「誰もが学びやすい高等学校」の実現

共生・共育	特別支援学校高等部分校の設置、支援体制(通級指導等)の充実
教職員の資質向上	学習指導要領の改訂に合わせた指導力の向上 教員育成指標に基づく自己研鑽・研修による資質の向上
学校施設・設備	施設改修、設備の充実など、良好な教育環境の計画的な整備

○ 「新構想高等学校計画」

地区	対象校等
伊東	伊東高校(普通科)、同校城ヶ崎分校(普通科)及び伊東商業高校(商業科)を発展的に新構想高校へ改編 →令和5年度(2023年度)目途
沼津	沼津西高校(普通科、芸術科)及び沼津城北高校(普通科)を発展的に新構想高校へ改編 →令和9年度(2027年度)目途
志保	金谷高校(普通科)を多様な生徒を受入れる多部制の単位制定時制課程を有する高校へ発展的に改編 →令和6年度(2024年度)目途
小笠	池新田高校(普通科)及び横須賀高校(普通科)を発展的に新構想高校へ改編 →令和8年度(2026年度)目途

番号	県名	適正規模	備考（再編整備の基準等）	H27人口 (単位1,000人)	H28公立高校 全日制生徒数 (単位：人)	H28公立 高校数 (単位：校)	1校平均 生徒数 (単位：人)
1	北海道	4～8		5,382	95,170	233	408.5
2	青森県	6以上（3市） 4以上（上記以外）		1,308	26,124	63	414.7
3	岩手県	4～6		1,280	27,817	67	415.2
4	宮城県	無	2年間連続して、全学年の在籍生徒数が、収容定員の3分の2未満で、かつ160人に満たない場合は再編を行う。	2,334	42,436	77	551.1
5	秋田県	4～8	入学者数が募集定員の2/3以下の状態が2年間続いた場合、原則として統合、募集停止等とする。	1,023	22,370	50	447.4
6	山形県	4～8		1,124	21,407	47	455.5
7	福島県	4～8		1,914	41,644	94	443.0
8	茨城県	4～8	3学級以下の学校においては、募集定員から入学者数を引いた数が2年連続して40名以上となった場合、原則として翌年度の生徒募集を停止し統合する。	2,917	56,471	96	588.2
9	栃木県	4～8		1,974	36,264	61	594.5
10	群馬県	4～8		1,973	38,381	68	564.4
11	埼玉県	8～6		7,267	116,819	147	794.7
12	千葉県	都市部 6～8 郡部 4～8		6,223	101,228	129	784.7
13	東京都	6		13,515	125,230	186	673.3
14	神奈川県	6～8		9,126	130,319	157	830.1
15	新潟県	4～8		2,304	44,952	88	510.8
16	富山県	4～8		1,066	21,389	43	497.4
17	石川県	4～8	1学年3学級の学校で、将来にわたって、定員未充足が見込まれる場合は統合等の対象として検討する。ただし、全県的な視野から、格別特色ある教育活動の展開が期待できる要因がある場合など、特別の事情がある場合はこの限りではない。	1,154	23,193	45	515.4
18	福井県	4～8		787	15,865	29	547.1
19	山梨県	4～8	適正規模を満たさない場合においても、生徒の通学実態、地域の実情等から再編整備が困難なときは、対象校から除外する。ただし、1学年2学級を割るような場合は再編整備の対象校とする。	835	18,221	31	587.8
20	長野県	6	以下のⅠまたはⅡの状態が2年連続した場合、他校との統合を行う。 Ⅰ 全校生徒が120人以下の場合 Ⅱ 全校生徒が160人以下で、かつ卒業者の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない場合	2,099	46,219	85	543.8
21	岐阜県	4～8		2,032	43,138	66	653.6
22	静岡県	6～8	1学年4学級以下の学校であっても、次のような観点から弾力的な対応を行う。 ・過疎地域であること等の当該高等学校が置かれている地域の実情に配慮すること。 ・県内唯一の学科であること等の設置学科の特質に配慮すること。 ・都市部だけに集中することなく、地域ごとに高等学校が適正に配置されるよう配慮すること。	3,700	65,436	95	688.8
23	愛知県	6～8		7,483	133,518	164	814.1
24	三重県	3～8	1学年2学級以下の高等学校は、改めて設置の意義を検証し、原則として分校とするとともに、近隣の高等学校との統廃合を視野に入れて、活性化に係る協議を行う。	1,816	37,324	59	632.6
25	滋賀県	6～8		1,413	30,890	51	605.7
26	京都府	6～8		2,610	38,768	65	596.4
27	大阪府	6～8	入学を志願する者の数が3年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする。	8,839	133,883	161	831.6
28	兵庫県	3～8	小規模校であることを活かした教育を行う特色ある学校として必要な場合には、1学年2学級以下の小規模校として存続する。	5,535	102,145	155	659.0
29	奈良県	8		1,364	25,581	37	691.4
30	和歌山県	4～8	適正規模の下限である1学年4学級の募集定員の2/3を維持することが見込めない高等学校は、地域の実情等を踏まえながら、統合を進めるとしている。	964	22,240	40	556.0

番号	県名	適正規模	備考（再編整備の基準等）	H27人口 (単位1,000人)	H28公立高校 全日制生徒数 (単位：人)	H28公立 高校数 (単位：校)	1校平均 生徒数 (単位：人)
31	鳥取県	4～8	2学級以下の入学者数が、2年連続して募集定員の2分の1に満たない場合は、分校化や再編等を検討する。	573	11,589	24	482.9
32	島根県	4～8	入学者数が入学定員の5分の3を2年連続下回ることが見込まれる等場合は再編を行う。	694	14,381	37	388.7
33	岡山県	4～8		1,922	36,032	63	571.9
34	広島県	6	全校生徒数が2年連続して収容定員の2/3未満となった場合は、統廃合等を行う。	2,844	46,940	91	515.8
35	山口県	4～8		1,405	23,912	60	398.5
36	徳島県	4～8		756	18,328	35	523.7
37	香川県	無		976	20,107	32	628.3
38	愛媛県	4～8		1,385	25,922	53	489.1
39	高知県	4～8		728	12,622	37	341.1
40	福岡県	6～8		5,102	74,778	106	705.5
41	佐賀県	4～8	1学年3学級の学校で、近い将来、定員を維持することが困難となることが見込まれる等の場合は再編を行う。	833	18,947	36	526.3
42	長崎県	4～8		1,377	26,244	57	460.4
43	熊本県	4～8		1,786	30,727	59	520.8
44	大分県	6～8		1,166	22,292	44	506.6
45	宮崎県	4～8	1学年4学級以下の高等学校については、大幅に定員を満たさない状況が続くなど、さらに1学級の削減をせざるを得ないことが予測される場合には、統廃合等を検討する。	1,104	21,596	38	568.3
46	鹿児島県	無		1,648	31,408	68	461.9
47	沖縄県	4～8		1,434	42,383	60	706.4

高等学校の学級規模による違いについて

1 公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（標準法）による学校規模と教職員数(普通科)

規 模	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
定 数	23 人	29 人	35 人	43 人	48 人	52 人

※標準法により公立の高等学校に置くべき教員の数定められている。

2 学級数による科目展開の違い（社会及び理科の例）

学校	A高校 7学級	B高校 4学級
地理 歴史	世界史B、日本史B、地理B、世界史演習、日本史演習、地理演習	世界史A、日本史B、地理B
公民	倫理、政治・政経	現代社会、政治・政経、現代社会探究
理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎、物理基礎演習、化学基礎演習、生物基礎演習、地学基礎演習	科学と人間生活、化学基礎、生物基礎
計	16 科目	9 科目

3 学校規模によるメリット・デメリット

＜大規模校＞

項目	メリット	デメリット
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員数が確保でき、生徒の興味、関心、進路希望に応じた多様な教育課程の編成が可能。(特に社会、理科) ○ 生徒の組合せが多く、人間関係に配慮した学級編成が可能。 ○ 部活動数、顧問数が確保でき、生徒の興味、関心、適正に応じた多様な部活動の展開が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の活躍場面を確保しにくい。 ○ 施設・設備・備品等の使用における制約が生じやすい。 ○ 部活動の活動場所に制約が生じる場合がある。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒間に刺激が多く、切磋琢磨の機会が豊かになり、良好な競争心が育まれる。 ○ 人間関係の組合せが多く、多様な人間関係ができる。(生徒、教師共に) ○ 学校行事等(文化祭、体育祭等)様々な場面で活力、活性化に資する面が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての生徒の把握が困難となる。 ○ 集団としての一体感が醸成しにくく、生徒相互の信頼関係や相互理解が弱くなりやすい。
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業務における役割、責任の所在が明確になりやすく、教員一人あたりの負担が軽減される。 ○ 規模が大きくなると、学校活力面でのメリットが大きく、様々な場面で多様な選択肢の提供が可能となり、活力ある校務運営がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての教職員間での相互連携が取りにくい。 ○ 個々の教員の全体的な視野からの見解が難しくなりやすい。

<小規模校>

項目	メリット	デメリット
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学校行事等での一人一人の活躍の場が増加する。 ○ 施設・設備・備品等の使用における制約が少なく、授業展開にゆとりがある。 ○ のどかな雰囲気での学習活動を行える。 ○ 生徒数が少ないため、団結力が生まれる。 ○ 部活動を集約すれば、上手く運営することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員数が少なく、生徒の希望に応じた科目を開設することが難しい。また、非常勤講師が多くなり、授業時間外での質問対応に支障が出やすい。 ○ 教員が担当する科目や学年の数が多くなり、授業準備等の負担が大きい。 ○ 生徒の組合せが少なく、学び合いの場が持ちにくいいため、多様な生徒の意見を聞くことが困難である。 ○ 部活動数、顧問数の確保が困難である。(特に団体種目) ○ 学校行事での生徒役割の固定化が懸念される。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の把握が容易となり、生徒との緊密な人間関係が作りやすい。 ○ 生徒相互の信頼関係や相互理解が強くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒間に刺激が少なく、切磋琢磨の機会が乏しくなり、良好な競争心が育まれにくい。 ○ 人間関係の組み合わせが少なく、固定化しやすくなり、人間関係に躓くとお互いに逃げ場がなくなる。 ○ 多くの場面で学校の活力、活性化に難がある。
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員が少人数であるため、相互連携が密になり、意思の疎通がしやすい。 ○ 若手でも責任のある仕事を任されることが多いため、教師の成長が早い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員が少人数のため、一人で何役もこなす必要があり、負担が大きい。

4 生徒の満足度

H29 学校対象調査より

区 分	4学級以下	6～8学級
学校が楽しい (肯定的回答の割合)	73%	82%
授業がよくわかる (肯定的回答の割合)	58%	68%
学校生活に満足 (肯定的回答の割合)	63%	73%

5 部活動開設状況

学校	A高校			B高校			C高校		
規模	7学級(計21学級)			4学級(計12学級)			1学級(計3学級)		
生徒数	計854人			計439人			計120人		
運動部数	部活動名	男	女	部活動名	男	女	部活動名	男	女
1	サッカー	80	4	サッカー	21	4	テニス	8	10
2	テニス	42	22	テニス	41	10	卓球	8	4
3	弓道	35	27	バドミントン	15	15	フットサル	11	4
4	バドミントン	34	27	バスケット	17	12			
5	バスケット	29	27	陸上	21	12			
6	バレーボール	31	24	野球	14	2			
7	陸上	18	23	剣道	14	4			
8	野球	25	5	弓道	6	1			
9	卓球	12	15	ソフトボール	0	13			
10	水泳	9	9						
11	レスリング	4	2						
12	剣道	4	0						
計	12	323	185	9	149	73	3	27	18
文化部数	部活動名	男	女	部活動名	男	女	部活動名	男	女
1	吹奏楽	8	88	吹奏楽	1	12	吹奏楽	2	5
2	合唱	15	44	音楽	8	15	美術	2	37
3	家庭	0	48	ボランティア	4	23	情報処理	8	11
4	書道	1	23	自然科学	8	4			
5	写真	6	13	美術	3	11			
6	囲碁将棋	17	0	茶華道	1	36			
7	ボランティア	4	13	商業・O A	15	11			
8	科学	15	0	地域学会	2	0			
9	美術	0	12						
10	茶道	0	11						
11	華道	0	11						
12	新聞	6	4						
13	放送	4	3						
計	13	76	270	8	42	112	3	12	53

数字は全て平成29年度時点

県立高校における新学科等の調査・研究について

(高校教育課)

1 要 旨

新たな学科の設置に係る調査・研究について、「静岡県教育振興基本計画」及び「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画(第三次長期計画)」に位置づけており、今後、地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会や総合教育会議等での議論を踏まえ取り組んでいく。

2 計画における位置づけ

(1) 静岡県教育振興基本計画

2018年度から2021年度までを計画期間とする、静岡県における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成30年3月に策定。

第1章 「文・武・芸」三道の鼎立を目指す教育の実現

<主な取組>

○県立高等学校における新たな学科(スポーツ・演劇・観光)の設置等に向けた研究

(2) ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画(第三次長期計画)

急激に変化する中で、生徒の実態や地域の実情等を踏まえた魅力ある学校づくりを推進するために、今後10年間程度(2028年度)を見通した計画として、平成30年3月に策定。

3 魅力ある高等学校の実現に向けて

(エ) 新たな学科の設置等の検討

本県では、「有徳の人」づくりに向け、「文・武・芸」三道の鼎立を掲げ、「技芸を磨く実学」の奨励に取り組むこととしており、これを具現化するための新たな学科の設置等を検討する。

(中略) 生涯を通じて誰もがスポーツに親しめる環境づくりや若者の才能を伸ばす実践的な学問とすることが求められており、本県のスポーツ振興に広く貢献できる人材育成を念頭に置き、競技力の向上のみに重点を置くことなく、地域のスポーツ振興や高齢化社会における健康長寿の実現に寄与できる指導者の育成等に配慮するものとする。

3 H31 年度予算

魅力ある学校づくり推進事業費

技芸を磨く実学の奨励

○新しい専門学科の研究

スポーツ科、演劇科及び観光科の設置に関する研究

3,450 千円

知性を高める学習の充実

グローバル教育の推進

スポーツ科について

(高校教育課)

1 県内高等学校の状況

	学校名	学科名	特徴的な取組
1	富士市立 高等学校	スポーツ探究科	<ul style="list-style-type: none"> 心身を鍛え、スポーツを科学的、理論的に学ぶ。 静岡県内で唯一のスポーツ専門学科。
2	県立静岡西 高等学校	普通科 (体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> 学校裁量枠で入学した生徒で編制。 生徒全員が運動部に所属し、中心選手として活躍するとともに、学校行事においてもリーダーシップが期待される。 平成 22 年度から「スポーツコミュニケーション教育」に取り組み、地域・社会に貢献できる人材の育成を目指している。
3	県立新居 高等学校	普通科 (体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> 普通科として募集し、1年次にコース選択希望を取り、2年次より編制する。 体育科の専門科目の他、自分の専門競技の向上を目指す。

(参考) 富士市立高等学校スポーツ探究科のカリキュラム例

(出典：平成 30 年度学校案内)

	(単位) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	
1年次	国語総合		世界史A	現代社会	数学I	数学A	科学と人間生活	保健	芸術I	スポーツ概論	スポーツI	スポーツII	スポーツIII	スポーツIV	スポーツV	総合演習	スポーツ	総合英語																野外活動(選択)
2年次	国語総合		国語表現	地理A	日本史A	数学II	生物基礎	化学基礎	保健	家庭基礎	スポーツ概論	スポーツI	スポーツII	スポーツIII	スポーツIV	スポーツV	総合演習	スポーツ	英語理解	英語表現	社会と情報	探究タイム(総学)												野外活動(選択)
3年次	現代文B	地理B	世界史B	生物基礎	化学基礎	数学B	華学生物基礎習	選択(6単位) 2単位×3科目	★	スポーツ概論	スポーツI	スポーツII	スポーツIII	スポーツIV	総合演習	スポーツ	探究I	スポーツ	英語理解	英語表現	課題演習	探究タイム(総学)												野外活動(選択)

★国語演習、世界史演習、日本史演習、地理演習、数学演習α、数学演習β、簿記、ビジネス情報、生活産業基礎、スポーツIV、総合英語演習

※スポーツI(陸上競技)、スポーツII(各種球技)、スポーツIII(武道等)、スポーツIV(ダンス)、
スポーツV(野外活動)、スポーツVI(体操)

2 他県の状況

(1) 全国の学科設置状況（平成 28 年調べ）

- ・公立設置数 47 校（設置都道府県数 30）、私立設置数 9 校（設置都道府県数 8）
- ・総合学科における「体育に関する系列」設置校（9 校）

(2) 平成 29 年度富山県教育委員会による調査（平成 30 年度全国公立高等学校第 1 学年定員等状況より）

- ・「スポーツ」「体育」を冠する学科設置都道府県数 29
- ・「スポーツ」「体育」を冠する普通科コース設置都道府県数 24

(3) 特色のある事例

	学校名	学科名	特徴的な取組
1	東京都立 駒場高等学校	保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、保健体育に関する指導者、社会各方面で活躍し得る人材の育成を目指す ・学校全体として「スポーツを通しての人づくり」、「地域と共にある学校づくり」を推進 ・専門種目は 9 専攻あり、体操競技場、プール、サッカー場、柔道場、剣道場、バレーボール、バスケットボール、陸上競技場を備え、専用で活動可
2	川崎市立 橘高等学校	スポーツ科	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツリーダーを目指し、スポーツを科学的に理論的に学ぶことを目標 ・普通科、国際科に加え定時制を併置 ・体育館 2 棟、A 級公認プール、武道場、陸上競技場、テニスコート等を備える
3	船橋市立 船橋高等学校	体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・体育・スポーツの専門性の向上 専門競技の高度な運動能力を培うとともに、スポーツ栄養・傷害などのスポーツサイエンスを幅広く取り入れている。体育科講義室、トレーニング室、国際試合も可能な体育館等、理論と実践両面に対応した施設・設備を最大限に活用した授業を行う ・心身のバランスのとれた全人教育 キャンプ・スキー等の野外実習や運動部活動の経験から豊かな人間性を身につける

演劇科について

(高校教育課)

1 本県の状況

	学校名	学科名	特徴的な取組
1	県立三島南高等学校	普通科	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定教科「舞台芸術」の開設 身体及び言語を中心とした舞台芸術に関わる総合的な学習を通して、人間が持つ表現力について認識を深め、豊かな自己表現の能力と創造性を育むとともに、集団の一員として、他者と協力しながら活動する態度を培うことで、社会の変化に柔軟かつ能動的に対応し、社会における自己の役割を主体的に果たすことのできる生徒の育成
2	県立浜松大平台高等学校 (定時制)	普通科	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定教科「演技表現」の開設 合理的な体の使い方や正しい発声法を身に付けることで、より良い人間関係を築くために必要な表現力の養成 演技への理解を深め、感性を高めることで豊かな情操の養成

(参考) 県立三島南高等学校普通科のカリキュラム例 (出典：三島南高校学校案内)

※2年次以降は一部案です。

1年 共通	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	国語総合	現代社会	数学I	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	音楽I 美術I 書道I 工業I	コミュニケーション英語I	英語表現I	家庭基礎	社会と情報	総合	LHR																	
2年 理系	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	現代文B※	古典B	地理B※ 世界史A	数学II	数学B	化学基礎	化学※	物理※ 生物※	体育	保健	コミュニケーション英語II	英語表現II※	総合	LHR																		
2年 文系	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	現代文B※	古典B※	世界史B※ 日本史B※	数学II 数学IA基礎演習 簿記	数学B 生物(遺伝)※ 情報処理 音楽II 美術II 書道II 工業II	化学基礎	世界史A 日本史A	体育	保健	コミュニケーション英語II※	英語表現II※	総合	LHR																			
3年 理系	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	32	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	現代文B※	古典B 物理演習 生物演習	世界史A 日本史A	地理B※ 現代演習 化学演習	数学III	数学IIAB演習 数学IA発展演習	情報処理 英語演習	物理※ 生物※	化学※	体育	コミュニケーション英語II	英語表現II※	LHR																			
3年 文系	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	現代文B※	古典B※	世界史B※ 日本史B※	世界史A 現代演習 現代文演習 体育演習	世界史B※ 日本史B※	政治・経済 生物(看護)※ 現代演習 情報処理 音楽III 美術III ファッション造形基礎	世界史B発展演習 日本史B発展演習	数学IIAB演習 数学IA発展演習 財務会計I 課題研究	化学基礎演習 英語演習 生命の化学	生物基礎演習 古典演習 生物演習(遺伝)	原価計算	体育	コミュニケーション英語II	英語表現II※	LHR																	

※印は2年次から3年次にかけて継続履修

この他に全学年次で日本大学国際関係学部との高大連携履修での単位取得あり

2 他県の状況

(1) 演劇に関する学科を設置している高等学校数

7校（都立1、府立1、県立4、市立1）

(2) 特色のある事例

	学校名	学科名	特徴的な取組
1	東京都立 総合芸術高等学校	舞台表現科	<ul style="list-style-type: none"> ・プロ人材の育成目的を明確化 ・「演劇」と「舞踊」の2つの専攻を設置 ・ダンス、古典芸能及び芝居作りを通して舞台表現者としての表現力や想像力の養成と資質向上 ・舞踊家に必要とされる基礎的な身体づくりと高度な技術の習得を目指した表現力、創造力の養成
2	兵庫県立 宝塚北高等学校	演劇科	<ul style="list-style-type: none"> ・プロに限らず芸術文化の発展に寄与する人材の育成を目的 ・学科内に専攻はなく、舞踏、劇表現、伝統芸能等を必須で学ぶ
3	大阪府立 東住吉高等学校	芸能文化科	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪芸術大学、近畿大学（舞台芸術専攻）による指導 ・舞台芸術（演劇領域、映像放送領域、伝統芸能領域）に関する総合的な学習
4	大阪市立 咲くやこの花高等学校	演劇科	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな情操を養い、望ましい人格を育てるための演劇を核とする学習方法 ・演劇教育を通じて、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身に付ける

観光科について

(高校教育課)

1 県内高等学校の状況

	学校名	学科名	特徴的な取組
1	熱海	普通科 (観光ビジネスコース)	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科の学校設定科目として「ホテル実務」「観光資源」を開設 ・熱海市、伊東市のホテル等での実習 ・地元ホテルの協力による「高校生ホテル」の実施 ・地域の特産品や観光資源を利用した商品開発やツアープランニングの実施など地域企業及び行政と協力した熱海の活性化
2	御殿場	創造ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科の学校設定科目として「観光Ⅰ」「観光Ⅱ」を開設 ・国内外の観光・旅行業務に関する基本的な知識・技能を学習し、地域の課題を主体的に捉え創造的に解決することのできる生徒の育成

【参考】熱海高校観光ビジネスコースのカリキュラム (出典：熱海高校ホームページ)

観光ビジネスコース教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
観光 ビ ジ ネ ス コ ー ス	2年	発展国語 総合演習			世界史A		数学A		生物 基礎		体育			保 健	音 楽Ⅰ 美 術Ⅰ 書 道Ⅰ	英 語 表 現Ⅰ		家 庭 総 合		ビ ジ ネ ス 基 礎			簿 記		ホ テ ル 実 務		桃 陵 ゼ ミ	L H R		
	3年	現 代 文 B			日 本 史 A 地 理 A		英 語 読 解		数 学 活 用		体 育			英 語 会 話	課 題 研 究		商 品 開 発		ビ ジ ネ ス 情 報			観 光 資 源		選 択 A		桃 陵 ゼ ミ	L H R			

選択Aについて

郷土研究 理科課題研究 ライフスポーツ 発展英語表現Ⅰ演習 子どもの発達と保育 フードデザイン

平成 11 年、観光ビジネスコースの特色として学校設定科目「ホテル実務」（2 年次）を新設した。熱海市、伊東市のホテル・旅館で 1 週間実習を行う。

学校設定科目「観光資源」（3 年次）では、地域の特産品や観光資源を利用した商品開発、ツアープランニングの実施など地域企業と行政と協力し、熱海の活性化を目指している。

平成 28 年、「味と湯の宿ニューとみよし」をホテル実習の新規実習先とし、6 月から 11 月の実習を経て高校生ホテルを開館した。

2 他県の状況

(1) 観光に関する学科を設置している高等学校

11校（道立1、県立8、市立1、私立1）※内1校は令和3年募集停止予定

(2) 特色ある高等学校

	学校名	学科名	特徴的な取組
1	宮城県立松島高等学校	観光科	<ul style="list-style-type: none"> ・『「おもてなし」とは、「人に感動を与える」ことである。』を掲げ、自分になりたい進路選択のため、自分で考え行動する授業を展開 ・観光に関する学校設定科目が充実 （1年次）観光基礎、地元学 （2年次）旅行業務、観光地理 （3年次）観光実践
2	福島県立猪苗代高等学校	観光ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の基盤産業である「観光」を専門的に学ぶことを通して、地域の課題を主体的に捉え、創造的に解決していこうとする人材を育成 ・猪苗代町や地元企業との連携を通して地域活性化と地域に貢献できる人材を育成

1 国際バカロレアの概要

(1) 国際バカロレアとは

国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム。

世界の複雑さを理解し対処できる生徒を育成し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置。

(2) 国際バカロレアのプログラム

ミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) やディプロマ・プログラム (DP) などがある。

MYPは11歳から16歳、DPは16歳から19歳が対象。

DPについては、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際バカロレア資格が取得可能。

従来、DPは英語で実施されてきたが、近年では一部の科目を日本語で実施する「日本語DP」が導入されている。

国際バカロレアの趣旨のカリキュラムは、学習指導要領が目指す「生きる力」の育成や、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等重要能力・スキルの確実な修得に資するものである。

(3) 教育内容・課程の特徴

ア 国際バカロレアの学習者像

国際バカロレア認定校が価値を置く人間性を、以下10の人物像として表している。

「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念を持つ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」

イ DPのカリキュラム

以下の6つのグループ（教科）及び「コア」と呼ばれる3つの必修要件から構成され、生徒は6つのグループから各教科を選択し、6科目を2年間で学習する。

No.	グループ（教科）	代表的な科目
1	言語と文学（母国語）	文学、言語と文化
2	言語習得（外国語）	初級語学
3	個人と社会	ビジネス、経済、地理、歴史
4	理科	生物、化学、物理、コンピュータ科学
5	数学	数学スタディーズ、数学SL、数学HL
6	芸術	音楽、美術、ダンス

さらに、カリキュラムの中核となる核（「コア」）の必修要件は以下の3つである。

○課題論文（EE：Extended Essay）

履修科目に関連した研究分野について個人研究の成果を論文にまとめる。

○知の理論（TOK：Theory of Knowledge）

「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。

○創造性・活動・奉仕（CAS：Creativity/Action/Service）

創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬での自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

(4) 日本における国際バカロレア DP 認定校の数

平成 31 年 3 月現在、MYP 認定校は 18 校、DP 認定校は 45 校。

2 県内高等学校の国際バカロレア認定校の状況

学校名	学科名（定員）	特徴
(私立) 加藤学園暁秀	普通科バイリンガルコース (30 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校（併設型）。 ・バイリンガルコースは、中学校入学時に募集する。 ・英語 DP を実施し、授業の多くを英語で行っている。 ・バイリンガルコースでは、中 1 から高 1 まで MYP を実施し、高 2 から高 3 で英語 DP を実施する。

3 他県の国際バカロレア認定校の状況

学校名	学科名（定員）	特徴
東京都立国際	国際学科バカロレアコース (25 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・高 2 から高 3 で英語 DP を実施。 ・バカロレアコースは、高校入学時に募集する。 ・高 1 では学習指導要領上の必履修科目を学び、英語 DP の橋渡しとして高 1 から多くの授業を英語で行っている。
東京学芸大学 附属国際中等 教育	普通科 (国際バカロレアによる教育を受講可能な生徒は 15 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校（中等教育学校）。 ・1 年から 4 年（中 1 から高 1 相当）までの成績等により、DP の選抜を行う。 ・中 1 から高 1 では、全員が MYP の考え方を取り入れたカリキュラムを履修する。 ・日本語 DP を実施。一部の科目以外は日本語で授業を行っている。

(参考) 広島県立叡智学園中学校・高等学校について

項目	内容
設置形態	<ul style="list-style-type: none"> ・全寮制の中高一貫教育校（併設型）。 ・中学校では 1 学年 40 人の募集を行い、県外からの出願も可能。 ・高校は 1 学年 60 人（うち外国人留学生 20 人）をベースとして検討中。
設置場所	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県豊田郡大崎上島町
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が国際バカロレアの MYP、DP に基づくカリキュラムを受講する予定。

魅力ある高校の取組例（海陽中等教育学校）

トヨタ自動車や JR 東海、中部電力などの中部地方の有力企業が中心となり設立され、2006 年 4 月に開校した全寮制の中高一貫男子校である。

設置学科は普通科。定員は 1 学年 120 名。

設置者は学校法人海陽学園（所在地は愛知県蒲都市海陽町）

学校の特徴

区分	内容
ハウス(寮)、 ハウスマスター 制度	全寮制のため、生徒たちが徹底して勉強に専念できる。また、教職員や多くの仲間たちと規律ある共同生活を通じて、 <u>協調性や社会性、道徳心を養い、自分とは違う価値観を学び、リーダーにふさわしい人格を育てている。</u> 海陽学園ではハウスと呼ばれる寮があり、それぞれにハウスマスターが常駐し、生徒はきめ細かいサポートを受けている。
フロアマスター 制度	寮には、フロアごとに生徒 20 名が一緒に生活している。このフロアに、 <u>日本を代表する各分野の企業から派遣された「フロアマスター」</u> が共に暮らし、 <u>社会人の先輩として生徒たちの成長を幅広く支援している。</u> フロアマスターは、学習の内容や進め方、受験対策など積極的に相談に応じている。
アカデミック アドバイザー制度	生徒一人一人がどういった学習を行っているのか把握したり、希望する進路について相談に乗ったりするアカデミックアドバイザーを配置。学習面のほかに学校生活での悩みを聞く機会もあり、生徒たちにとっては学校の頼れる理解者のひとりとなっている。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 新たな好奇心を養い、幅広い教養を身につけるために、<u>さまざまな分野の第一線で活躍する専門家による特別講義を実施している。</u>この特別講義は、まだ知らない世界の扉を開き、漠然と感じていた興味をより深く掘り下げ、将来の進路を考えるきっかけとなる。また、各界のリーダーでもある専門家と直接触れ合うことで向上心が刺激され、自分の夢を実現するためのヒントを見つける機会となっている。 寮を担当するフロアマスターの所属企業などを訪れ、<u>体験を通して働く意義や社会人としての社会貢献について理解する「企業訪問」を実施</u>
国際交流	海外大学受験を視野に入れた「特別英語クラス」、海外学校との交換留学、国際交流行事など多角的な活動を行っている。これらのプログラムを積極的に活用して <u>国際的価値観に対応できる能力を体得し、未来の国際的リーダーを目指している。</u>

魅力ある高校の取組例（福井工業大学付属福井高等学校）

目的に応じて最適の施設設備が整えられ、様々な取組が行われている。集団生活を通して人間性の成長を目指す教育施設として寮が設置（全寮制ではない）されている。
各学科・コース・分野の特徴

学科・コース・分野	特徴的な取組
特別進学科	<ul style="list-style-type: none"> 探究授業により探究心を養い、思考力・判断力・表現力を身に付ける。 国際感覚や英語力の向上を目指し、グローバル社会に対応できる人材を育成する。
進学科 進学コースⅠ類	<ul style="list-style-type: none"> 探究心を養い、何事にも協調性を持って積極的に取り組む事のできる人間性を身に付ける。
進学科 進学コースⅡ類 普通	<ul style="list-style-type: none"> A L Tを英語の授業に積極的に配置することで、実践的な英会話授業を展開し、これからのグローバル社会に対応できる人材を育成する。
進学科 進学コースⅡ類 デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 福井工業大学のデザイン学科と連携して、著名なデザイナーやアーティストを招いた講演会やイベント等に参加し、将来の夢に向けて自ら学習する意欲を育む。
進学科 進学コースⅡ類 情報	<ul style="list-style-type: none"> 恵まれた I C T環境の中でハードウェアの仕組み、ソフトウェアの操作、インターネットを利用した情報活用等を身に付ける。
進学科 体育コース	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを通して人間教育を行い、<u>アスリートとして自身に負けない強い精神力とリーダーシップを持った人間力の高い人材を育成する。</u> 優秀な指導者に外部指導者やトレーナーを加えた体制で、技術や能力を向上させるとともに、独自のグローバル教育で海外でも活躍できるアスリートを育成する。 <u>各クラブの専門実技の授業やクラブ活動を通して、多くの練習時間を確保することができ、各競技の専門技術や能力を向上できるカリキュラムになっている。</u>
進学科 創造科学コース 電気・コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習に重点を置き、第 1・2 種電気工事士などの資格取得に努め、将来の進路実現を自らできる人材を育成する。
進学科 創造科学コース 機械システム	<ul style="list-style-type: none"> グループでの実習やものづくり活動を通して、ものづくりに関する技術・技能のみならず、コミュニケーション能力や協調性を育成する。
衛生看護科	<ul style="list-style-type: none"> 病院の医師・看護師から直接講義を受けることで、専門知識や技能の習得だけでなく、学習に向かう意欲のある人材を育成する。

※体育コースの1日の学び

各クラブ部の専門実技の授業とクラブ活動を継続することで多くの練習時間を確保

4 コマ授業	体育の 専門実技	クラブ活動
--------	-------------	-------

8:50

13:20

15:35

4 県教育振興基本計画における国内外で活躍できる人材の育成に関連する施策とその位置付け

第1章 「文・武・芸」三道の鼎立を目指す教育の実現

1 「知性を高める学習」の充実

子供たちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力を向上させます。

また、自らの意思と判断で人生をより豊かに生きていくために大切な読書活動の充実と情報社会を生きるために必要な情報活用能力の育成を図ります。

(1) 確かな学力の向上

■施策の内容

ア 子供たちの知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した上で、知識の理解の質を更に高めるとともに、音読や伝統・文化に関する教育、体験活動の充実等を通じて未来の創り手に必要な資質・能力を育みます。

主な取組

- 言語能力の確実な育成
- 理数教育の充実
- 情報活用能力育成のための学習活動の充実
- 音読や朗読等を通じた知識・技能の習得と表現力等の育成
- 地域学等を通じた伝統や文化に関する教育の充実
- 地域資源等を活用した体験活動の充実
- 地域におけるボランティア・インターンシップ等の体験活動の充実
- 特別教科化に対応した道徳教育の充実
- 外国語教育の充実
- 国際バカロレアに関する調査研究の推進
- 高大接続改革への対応の推進

[担当：教育政策課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、総合教育センター]

2 「技芸を磨く実学」の奨励

一人一人の能力や適性、意欲に応じた多様で柔軟な教育をより一層展開するため、農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツ等の様々な分野において自らの才能を伸ばす実践的な学問としての「技芸を磨く実学」を推進するとともに、郷土を担う子供たちの「生きる道」としての仕事を学ぶ環境づくりに努めます。

また、専門的職業人として社会の変化に柔軟に対応し、地域産業の発展に貢献できる人材の育成を図ります。

(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの推進

■施策の内容

ア 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、国内外で活躍し、県民に夢と希望と感動を与えることができるトップアスリートの育成を目指します。

主な取組

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックや国民体育大会に向けたジュニア世代の育成と競技団体との連携強化
- トップアスリートの強化・活用
- 選手の成長を見据えた一貫した指導が行われる体制づくり
- スポーツ医・科学の活用
- 全国トップを目指す運動部活動への支援
- 指導者の養成・活用
- トップレベルの指導法を学ぶ機会の提供
- 公益財団法人静岡県体育協会や競技団体、障害者スポーツ協会との連携強化
[担当：スポーツ振興課、障害者政策課、健康体育課]

イ オリンピック・パラリンピック教育の推進を図り、スポーツの価値や国際・異文化理解を深めるとともに、児童生徒のオリンピック・パラリンピック及びスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツ活動の一層の充実を図ります。

主な取組

- しずおか型部活動の推進と検証
- スポーツ人材バンクの活用促進
- 部活動指導員や外部指導者の活用促進
- 運動部の指導者養成及び選手強化による運動部活動強化の推進

- 大学等との連携による部活動支援ボランティアの推進
- 全国トップを目指す運動部活動への支援（再掲）
- 全国高等学校総合体育大会（2018年度）の開催に向けた運動部活動の充実やおもてなし・大会PR等の高校生活動の推進
- 学校と地域が連携したスポーツクラブの推進
- アスリートとの交流やパラスポーツ体験等のオリパラ教育を通じたスポーツへの興味・関心・理解の促進

[担当：健康体育課]

ウ 富士山静岡空港の就航先等、国内外の地域とのスポーツ交流を推進するとともに、国際的・全国的なスポーツイベントを誘致し、レベルの高いスポーツ競技の観戦機会の創出を図ります。また、国内トップレベルのプロスポーツや企業スポーツ等と連携し、スポーツの普及・振興を図ります。

主な取組

- 国内外の地域とのスポーツ交流の促進
- 国際的・全国的なスポーツイベントの誘致
- ラグビーワールドカップ2019の静岡県開催の準備
- 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技静岡県開催の準備
- 東京2020オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致の支援
- 各種スポーツ大会の開催支援
- 小・中学生や高校生による国際交流親善試合等の開催
- しずおかスポーツフェスティバルの開催

[担当：スポーツ振興課、オリンピック・パラリンピック推進課、ラグビーワールドカップ2019推進課、健康体育課]

(3) 多彩で魅力的な文化芸術の創造・発信と地域学の充実

■施策の内容

ア 国の内外から注目され、その魅力を高く評価される“ふじのくに”の文化芸術を創造・発信する活動を推進します。

主な取組

- 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの推進
- SPACによる舞台芸術活動の推進
- 文化資源に係る情報の収集や発信

○「すこやか長寿祭美術展」等の発表の場の確保

○障害のある人の文化芸術活動への支援

○「ふじのくに多彩な和の食文化」の推進

[担当：文化政策課、長寿政策課、障害者政策課、地域農業課]

オ “ふじのくに”に根ざした地域学を基盤として、地域を知り、地域の良さを再認識できるような学習機会の充実を図り、郷土愛を育む教育を推進します。

また、観光をはじめとする様々な形で地域を支え、地域に貢献する人材を育成します。

主な取組

○地域学の推進（地域学推進指定校の設定、フィールドワークの実施）

○地域固有の自然、歴史、産業等の資源や人材を活用した学習の推進

○市町等が作成した郷土資料等の授業での活用

○景観学習教材の作成及び利活用

○ふじのくに地球環境史ミュージアムの館内講座やアウトリーチ活動の充実

○観光人材の育成

[担当：文化政策課、観光政策課、景観まちづくり課、義務教育課、高校教育課]

3 学びを支える魅力ある学校づくりの推進

社会の変化や地域・保護者からの期待に応える「地域とともにある学校」としての役割、それを実現するための組織マネジメント機能の強化を図ります。

また、発達段階や教育的ニーズに応じた教育の充実等、多様な人材を育む教育に取り組むとともに、学校教育を支える教職員の資質・能力の向上や学校における健康教育を推進します。

(1) 学校マネジメント機能の強化

■施策の内容

ア 学校の組織マネジメント機能や県民の教育ニーズへの対応状況について、学校関係者による評価を行い、学校運営の健全性の確保及び教職員の資質向上を図るとともに、それらの結果を積極的に公開することにより、地域とともにある学校づくりを推進します。また、学校・家庭・地域の連携を図り、地域社会の拠点となる学校づくりを目指します。

主な取組

- 学校マネジメントに必要な資質・能力の向上に関する研修の実施
- 学校関係者評価の結果公表の促進
- コミュニティ・スクール研究協議会の開催及び研究成果の発信
- 地域学校協働本部の設置促進
- 地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の養成・活用・フォローアップ
- 地域と学校の連携・協働に関する研修の実施
- 「魅力ある学校づくり」指定研究事業成果の活用と発信

[担当：私学振興課、教育政策課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、社会教育課、総合教育センター]

イ 「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画（県立高等学校第三次長期計画）」、「静岡県立特別支援学校施設整備基本計画」に基づき、多様化する児童生徒の実態や地域社会の実情・ニーズに柔軟に対応した県立学校における魅力ある学校づくりを計画的に進めるとともに、中長期の施設整備計画の策定により教育環境の改善を図ります。また、市町からの相談等への対応や人的支援等、市町立学校の統廃合における学校運営を支援します。

主な取組

- 「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画（県立高等学校第三次長期計画）」の推進
- 「静岡県立特別支援学校施設整備基本計画」の推進
- 県立高等学校における新たな学科（スポーツ・演劇・観光）の設置等に向けた研究
- 県立学校の施設整備や長寿命化改修等の実施
- 高等学校における特色ある教育課程の編成の研究
- 中山間地域校における教育環境向上等に向けた遠隔授業の研究
- ランドデザイン（学校経営構想図）や学校経営計画書の充実
- 公立中高一貫教育における成果や課題の検証と改善
- 小・中学校統合時の学校運営支援
- 賀茂地域教育振興基本方針を踏まえた広域連携による教育の推進支援

[担当：教育総務課、教育政策課、財務課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、総合教育センター]

第2章 未来を切り拓く多様な人材を育む教育の実現

1 グローバル人材の育成

我が国が世界の一員として積極的な役割を果たしていくためには、郷土を愛するとともに、多様性を理解し、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を身に付けた国際社会に貢献できるグローバル人材の育成が必要です。静岡県の魅力を的確に伝えることができるプレゼンテーション能力、外国の文化や歴史等を理解し受け入れることができる姿勢等を育むとともに、外国語教育や外国人児童生徒等への教育の充実に取り組みます。

(1) 海外留学等の相互交流の促進

■施策の内容

ア 総合的な留学生支援を促進するため、留学生のリクルートから、就職時・帰国後のフォローまでの一貫した支援を実施します。また、世界に目を向けながら地域社会の発展に貢献できる人材を育成するため、「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用した高校生や教職員の海外派遣を促進します。

主な取組

- 県内大学への留学生の受入促進
- 留学生と日本人学生が共に学び交流する場の設置の検討
- 本県に就職を希望する留学生を支援する仕組みの充実
- 日本人学生の海外への留学促進
- 「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用した人材育成（高校生の海外インターンシップやものづくり世界大会への参加等の留学支援、県内大学との連携による留学の実施等）
- 高校生・大学生等に向けた海外留学応援フェアの開催
[担当：大学課、私学振興課、教育政策課、高校教育課]

イ 多文化共生に向けた国際理解に係る教育を推進するため、教職員や青年、学生等の海外研修や相互交流を推進します。

主な取組

- 富士山静岡空港を利用した海外教育旅行の促進
- モンゴル国（ドルノゴビ県を含む）との高校生相互交流
- 中国浙江省との短期留学生交流
- 中国浙江省への中国語研修生（民間対象）の派遣
- 日中青年リーダーの交流推進
- 訪日教育旅行等を通じた台湾との交流
- JICAボランティア、日本語パートナーズへの参加促進
- 教員の青年海外協力隊・日系社会青年ボランティアへの参加奨励
- 外国人住民と日本人住民の多文化共生社会の構築に向けた意識啓発

[担当：地域外交課、多文化共生課、大学課、空港利用促進課、教育政策課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、社会教育課]